

第3次古賀市ごみ処理基本計画

2024-2033

福岡県古賀市

目次

第1章 基本計画の趣旨	1
第1節 計画の趣旨	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の性格（位置づけ）	2
3. 計画の対象・範囲・期間	3
第2章 古賀市の概況	4
第3章 ごみ処理の現状と課題	6
第1節 ごみ処理の概況と体制	6
1. ごみ処理の概況	6
2. 収集運搬体制	6
3. ごみ処理フロー	7
第2節 ごみの状況	7
1. ごみの排出量	8
2. 分別ごみの収集量	10
3. 集団回収量・拠点回収量	11
4. 埋め立てられるごみの量	12
5. ごみの性状について	13
第3節 ごみ処理方法	14
1. ごみ処理施設	14
2. 資源化率	17
3. ごみ処理量	19
4. ごみ処理事業経費	20
第4節 実施施策の評価と今後の取組への課題	21
1. 第2次計画の指標について	21
2. 第2次計画期間の主な取組	23
3. 第2次計画における現状と課題について	24
第5節 ごみ処理に関する課題と今後の取組の方向性	35
第4章 ごみ処理基本計画	36
第1節 計画の基本方針	36
1. 基本理念	36
2. 循環型社会の形成	37
3. ごみ処理の基本原則	38
4. 基本方針	39
5. 市民・事業者・市の役割	40
第2節 計画の目標	42
1. ごみ排出量の将来推計	42
2. ごみ減量と資源化の指標	44

第3節 施策の展開.....	46
1.生活系ごみ対策	47
2.事業系ごみ対策	49
3.市民・事業者・市のパートナーシップづくり	51
4.資源循環に関する環境教育の充実	52
5.ごみ処理に関する体制整備の推進	53
第4節 計画の進行管理.....	55
1. ごみ処理状況の情報管理と公開	55
2. 取組状況の報告.....	55
3. 推進体制.....	55
4. 玄界環境組合及び構成市町との連携.....	55

【資料編】

「ごみ処理基本計画策定検討専門部会」の設置について	資- 2
計画策定の経緯.....	資- 2
古賀市ごみ処理基本計画策定検討専門部会 委員名簿.....	資- 2
第3次古賀市ごみ処理基本計画の策定について（諮問）	資- 3
第3次古賀市ごみ処理基本計画の策定について（答申）	資- 4
古賀市環境人材バンク制度と環境教育プログラム	資- 5
古賀市循環型社会研究会における廃棄物の種類ごとの資源化のあり方の方向性.....	資- 7
製品プラスチック 分別収集実証の結果について（概要）	資-16
市民アンケート調査の概要.....	資-17
事業者アンケート調査の概要	資-34
生ごみアンケート調査の概要	資-41
ごみ組成調査結果	資-47
用語解説.....	資-50

第1章 基本計画の趣旨

第1節 計画の趣旨

1. 計画策定の趣旨

高度成長期を経て経済発展した日本は、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会となり、その結果もたらされた廃棄物処理に伴う環境負荷、処理に係る負担増、不法投棄の増大等の深刻な社会問題が生じました。複雑化するこれらの問題に総合的に対処するため、国は持続可能な発展を目指す循環型社会の形成に向けて平成12(2000)年に「循環型社会形成推進基本法」を制定し、目指すべき将来像として「循環型社会」を掲げ、その実現に向けて様々な制度をつくとともに施策を推進してきました。これらを受け、古賀市では平成14(2002)年度に古賀市ごみ処理基本計画、平成25(2013)年度に第2次古賀市ごみ処理基本計画（以下、「第2次計画」）を策定し、ごみの現状や廃棄物行政の動向を踏まえた対応を行ってきました。

近年、ごみ処理をめぐる社会の状況は急速に変化しています。地球温暖化を緩和するカーボンニュートラルの実現に向けて、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行が加速化され、プラスチック資源循環の促進や食品ロス削減、レアメタル等金属資源の国内リサイクルが推進されています。また、ごみ処理の問題は、平成27(2015)年度の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）と深い関わりがあります。

このような背景のもと、令和5(2023)年度で第2次計画の計画期間が満了することに伴い、一般廃棄物を取り巻く現状、第2次計画の評価等を踏まえ、持続可能な循環型社会の構築に向けた各施策の一層の推進を目的とし、第3次古賀市ごみ処理基本計画を策定します。



図1 SDGsの17のゴール

2. 計画の性格（位置づけ）

本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45(1970)年 法律第 137 号、以下「廃棄物処理法」という。）第 6 条第 1 項の規定により策定するものです。同規定には、市町村は当該区域内の一般廃棄物の処理に関する計画（以下「一般廃棄物処理計画」という。）を定めなければならないとされています。

一般廃棄物処理計画は、長期的視点に立った市町村の一般廃棄物処理の基本方針となる計画（一般廃棄物処理基本計画）と、基本計画に基づき年度ごとに、一般廃棄物の排出の抑制、減量化・再生利用の推進、収集、運搬、処分等について定める計画（一般廃棄物処理実施計画）から構成されますが、ごみに関するものは、「ごみ処理基本計画策定指針」（平成 25(2013)年 6 月環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課）に基づいて策定するものであり、本計画は、古賀市における一般廃棄物処理事業の最上位計画となります。

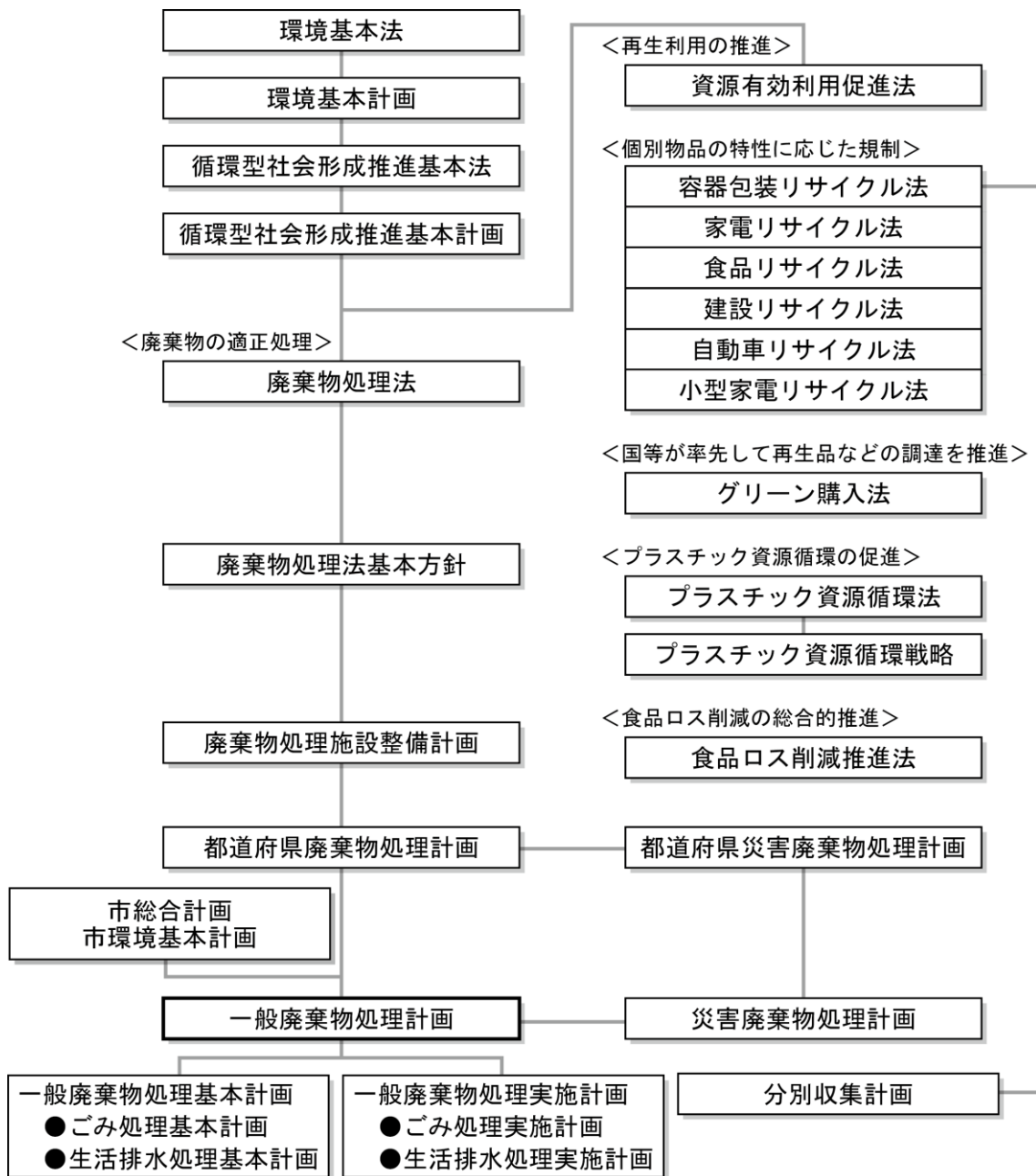


図 2 一般廃棄物処理計画と他の計画との関係

3. 計画の対象・範囲・期間

本計画は、古賀市全域を対象とし、「廃棄物処理法」に基づく一般廃棄物についての排出抑制、分別排出、収集運搬、中間処理、最終処分に至る全工程を範囲とします。

また、計画期間については、上位計画である「第3次古賀市環境基本計画」と同様に、令和6(2024)年度を初年度とし、令和15(2033)年度を目標年度とする10年間とします。

なお、5年目にあたる令和10(2028)年度を中間目標年度として設定しますが、計画策定の前提となる諸条件に大きな変動があった場合は、見直しを行います。

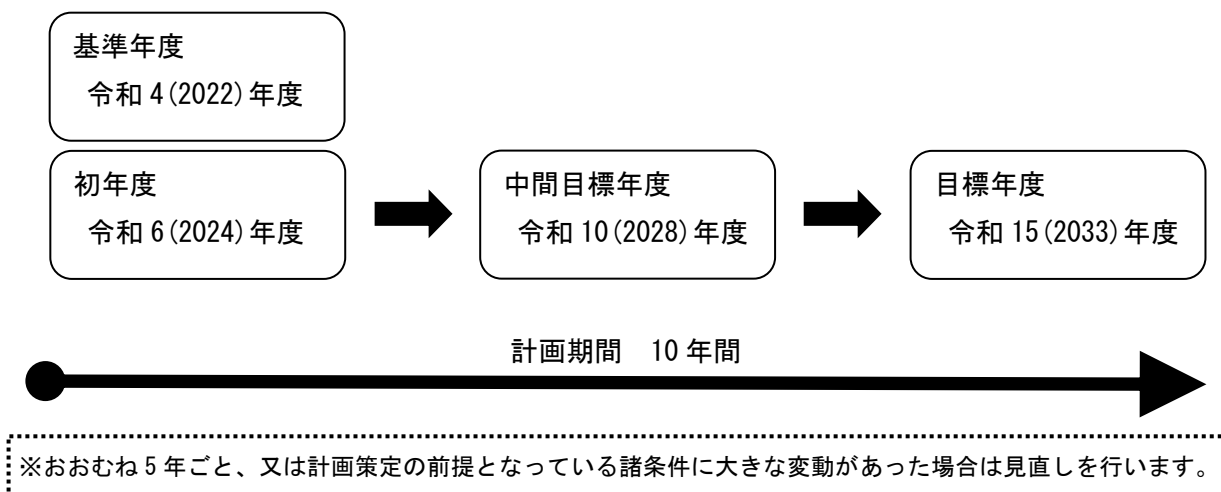


図3 計画の期間

第2章 古賀市の概況

福岡県の北西部に位置し、東に緑豊かな犬鳴山地の山々、西に白砂青松の美しい海岸線を有する海の広がる自然に恵まれたまちです。福岡都市圏に属し、九州自動車道のインターチェンジや2本の国道、3つのJR駅を有す優れた交通アクセスを生かして工業団地や住宅団地が立地し、便利で快適な生活環境が整っています。

- 面積：約 42.07km²
- 人口：59,346人（住民基本台帳：令和4(2022)年9月末）
 - ※ここ10年来の人口推移は緩やかな増加傾向。
 - 令和元(2019)年度以降59,000人を超える状況が続く。
 - ※外国人人口は令和4(2022)年3月末現在で814人。
 - 技能実習生、特定技能が占める割合が高く、単身世帯、短期滞在者が多い。
- 世帯数：26,578世帯（住民基本台帳：令和4(2022)年9月末）
 - ※人口よりも顕著な増加傾向。
 - 一世帯当たりの人数は徐々に低下し、令和4(2022)年9月末は2.23人。
- 行政区数：46行政区
- 高齢化率：約27.7%（国勢調査：令和2(2020)年）
 - ※高齢化率（65歳以上人口の総人口に占める割合）は町丁・字別で異なり、50%を超える地区も見られる。
- 土地利用：西部にはJR鹿児島本線、国道3号、495号周辺に住宅を中心とした市街地が形成し、南西部には大規模工業団地が立地する。中央部の平地から丘陵地には農地・集落、東部には樹林地が広がる。

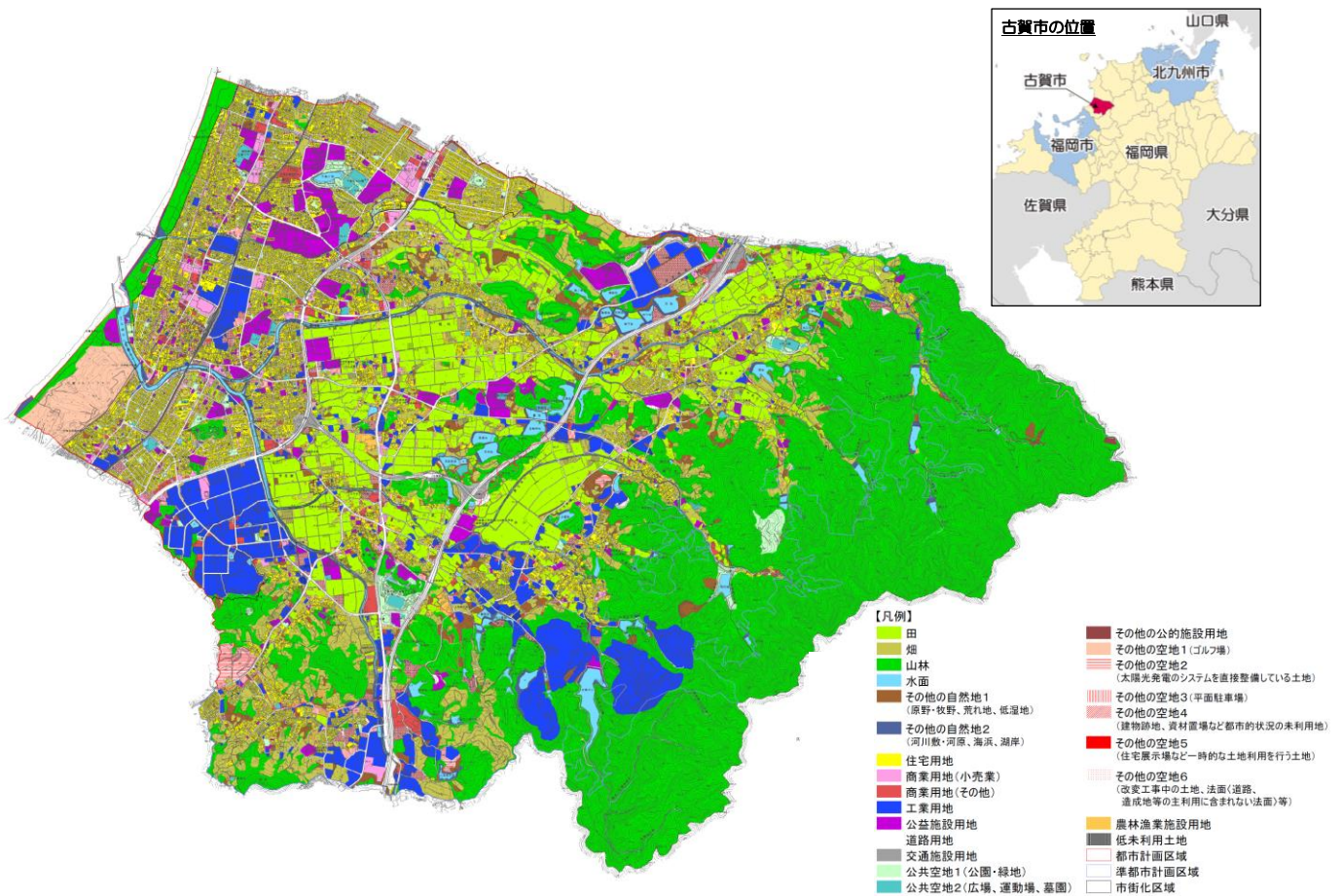


図4 古賀市の土地利用現況

※資料：都市計画基礎調査（令和4(2022)年）

- 開発計画：令和 4(2022)年度に策定した「JR古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドライン」を基に駅東口周辺地区の新たなまちづくりの実現をめざして整備を進めている。
- 産 業：中核産業は鉱工業（鉱業と製造業）。市内総生産額の 41.5%を占めるほか、産業別就業者人口も製造業が 18.0%を占める。

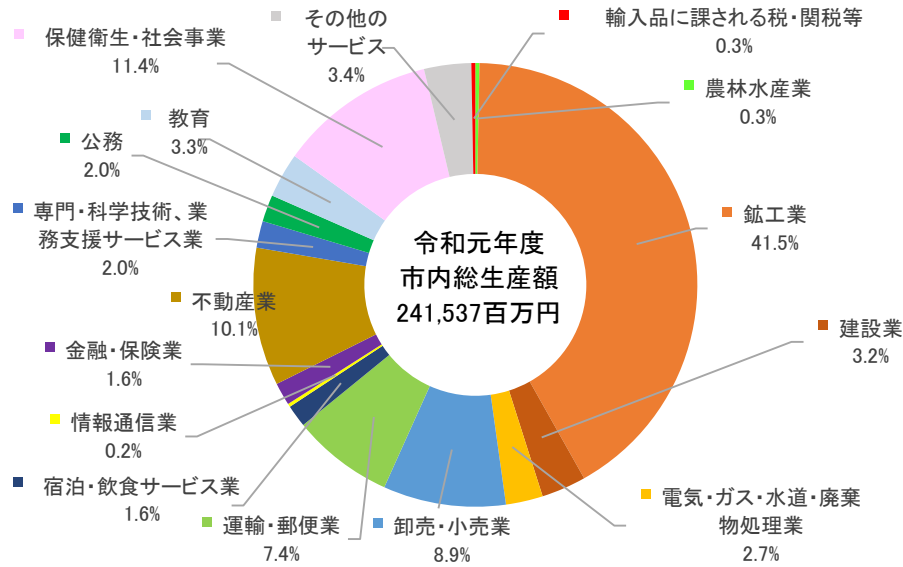


図 5 経済活動別総生産の構成

※資料：福岡県市町村民経済計算（令和元(2019)年）

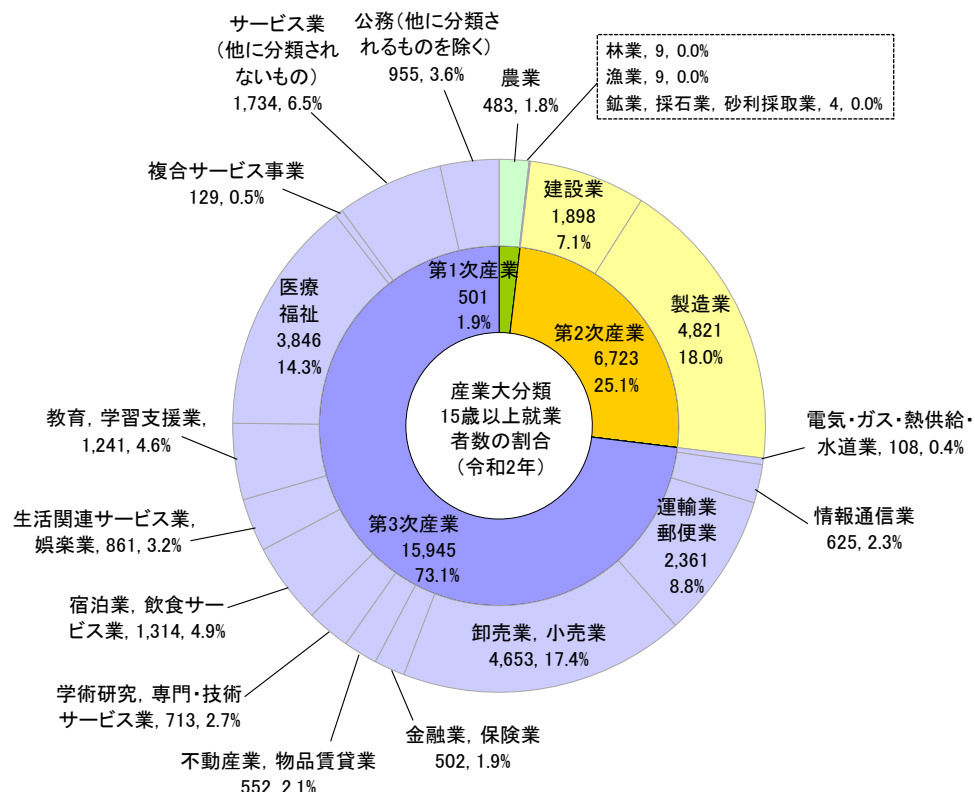


図 6 産業別就業者人口の構成

※資料：国勢調査（令和2(2020)年）

第3章 ごみ処理の現状と課題

第1節 ごみ処理の概況と体制

1. ごみ処理の概況

古賀市のごみ処理施設には、古賀清掃工場(エコロの森)と古賀市不燃物埋立地があります。古賀清掃工場(エコロの森)は、主に可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみを処理する施設で、玄界環境組合(構成市町:古賀市、福津市、宗像市、新宮町)が運営しており、古賀市、福津市、新宮町がごみを搬入しています。

古賀市不燃物埋立地は、古賀清掃工場(エコロの森)で処理できない一般家庭から出る不燃ごみのうち、埋立ごみ(陶磁器、ブロック、がれき等)を処理する施設です。

コラム 産業廃棄物の適正処理

事業所から出るごみは家庭から出るごみとは区分され、「事業系一般廃棄物」と「産業廃棄物」に分けられます。「産業廃棄物」は法令で定められた20品目のことを指し、市では処理をしていません。産業廃棄物は、法令に基づいて事業者(排出者)が適正処理する必要があります。

市の事務事業により出る汚泥等の廃棄物は、「古賀市海津木苑」(汚泥再生処理センター)で適正処理しています。

2. 収集運搬体制

古賀市のごみの収集運搬体制は、表1に示すとおりです。

表1 収集運搬体制

収集区分	ごみ区分	収集方式	排出形態	搬入施設	収集の日程・回数	手数料		
家庭から出たごみ	市が収集(委託業者が収集)	可燃ごみ	戸別収集	指定袋	古賀清掃工場(エコロの森)	2回/週	62.9円/袋(大) 36.6円/袋(小) 20.9円/袋(ミニ)	
		粗大ごみ	戸別収集	指定処理シール		月～金	523円/個	
	資源ごみ 不燃ごみ	分別12品目*	拠点回収(地域別)	コンテナエコバッグ		1回/月	無料	
		分別12品目* 古紙類	拠点回収(清掃工場)	コンテナエコバッグ		3回/月	無料	
		分別12品目*	拠点回収(市役所)	コンテナエコバッグ		2,3回/月	無料	
		ペットボトル 容器包装プラスチック 紙パック	拠点回収	回収ボックス		随時	無料	
		小型家電	拠点回収	回収ボックス		1回/週	無料	
		古紙類	拠点回収	回収倉庫		再生業者	随時	無料
		剪定枝	拠点回収	—		再生業者	月～金 第5土曜日	枝葉・樹木・竹 : 12円/kg 草 : 12円/kg 根株・木幹 : 20円/kg 混合(枝葉・草) : 12円/kg
廃食用油	拠点回収	容器	再生業者	随時	無料			
事業系ごみ	個別契約(許可業者が収集)	可燃ごみ	個別収集	指定袋	—	104.7円/袋(大) 73.2円/袋(小)		
		不燃ごみ	個別収集	—	—	—		
		粗大ごみ	個別収集	—	—	—		
直接搬入ごみ	可燃ごみ 不燃ごみ	直接搬入	—	古賀市不燃物埋立地	月～土	170円/10kg		
	埋立ごみ	ブロック 陶磁器 がれき等	直接搬入		許可制(事業者搬入不可)	月、水、金	0.5tまで 500円 1tまで 1,000円 2tまで 2,000円	
集団回収	古紙類等	集団回収 団体が収集	—	—	—	—		

※ 分別12品目は、びん・ガラス・陶磁器・金属混合物・乾電池・スプレー缶・蛍光管・紙パック・ペットボトル・飲料缶・梱包材・プラスチック製容器包装です。

3. ごみ処理フロー

古賀市のごみ処理のフローは、図 7 のようになります。

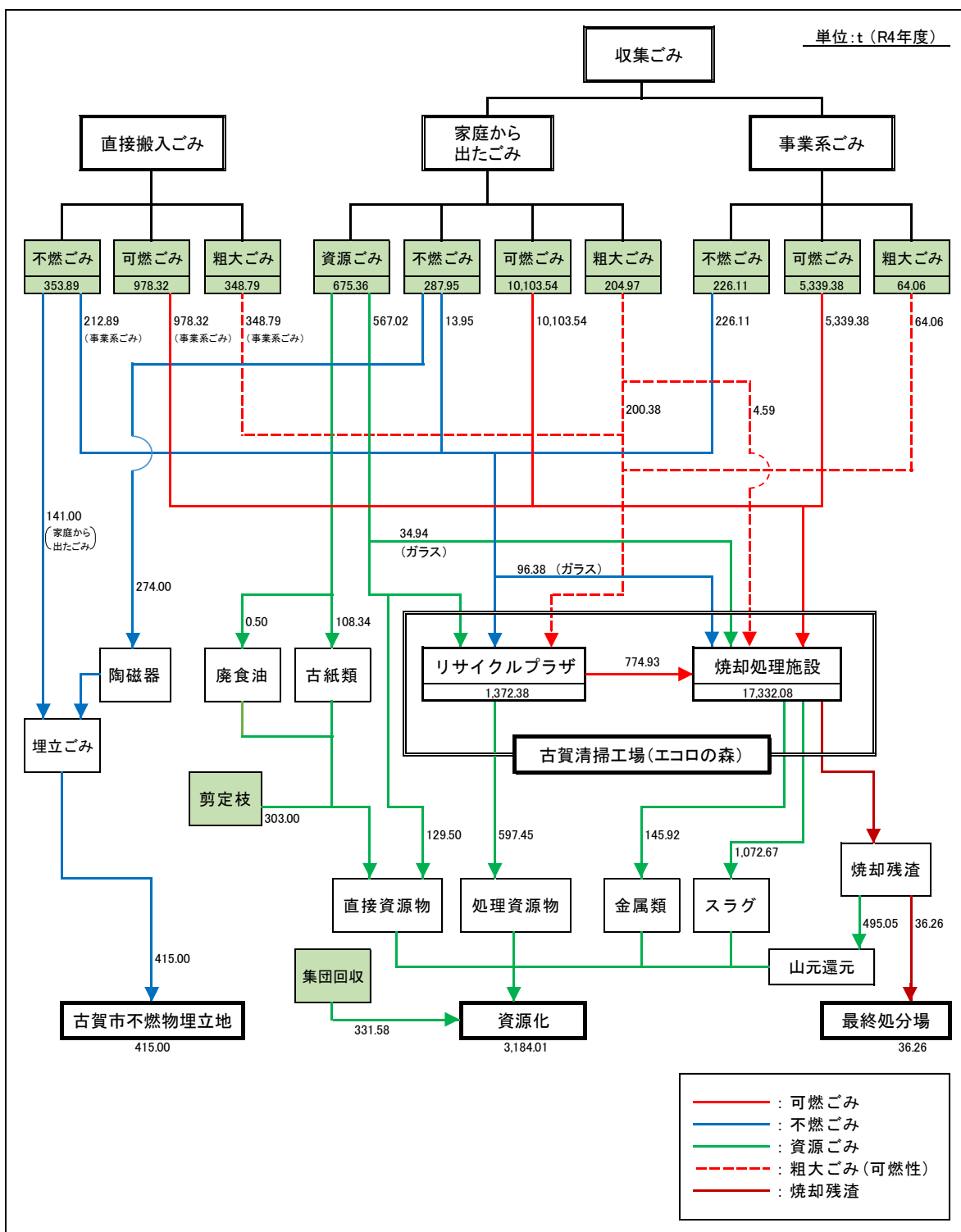


図 7 ごみ処理フロー

第2節 ごみの状況

1. ごみの排出量

ごみの排出量の推移を種類別に表すと、図8、表2に示すとおりです。

人口は微増傾向の中、「ごみ総排出量」と「1人1日当たり排出量」はいずれも、令和2(2020)年度以降、若干減少傾向にあります。

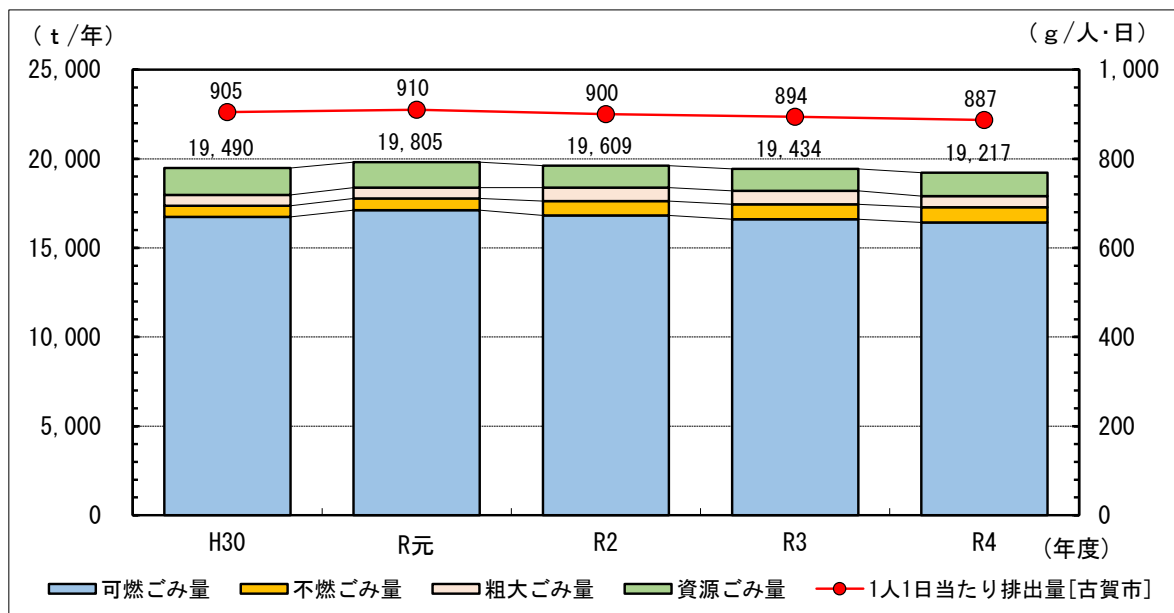


図8 ごみ排出量（種類別）

表2 ごみ排出量（種類別）

年度		H30	R元	R2	R3	R4
可燃ごみ量	t/年	16,738	17,124	16,827	16,617	16,421
不燃ごみ量	t/年	627	652	803	827	868
粗大ごみ量	t/年	610	609	749	754	618
資源ごみ量	t/年	1,515	1,420	1,228	1,236	1,310
ごみ総排出量	t/年	19,490	19,805	19,609	19,434	19,217
人口	人	58,993	59,444	59,694	59,565	59,346
1人1日当たり排出量[古賀市]	g/人・日	905	910	900	894	887
1人1日当たり排出量[福岡県]	g/人・日	946	945	946	926	—
1人1日当たり排出量[全国]	g/人・日	919	918	901	890	—

※ 各数値を四捨五入しているため、「ごみ総排出量」の値において±1(t)の誤差が生じている場合がある

※ 令和4(2022)年度の福岡県及び全国の1人1日当たり排出量は、令和6(2024)年2月12日現在未発表

ごみの排出量の推移を形態別に表すと図 9、表 3 に示すとおりです。

収集ごみ量（家庭から出たごみ）は令和 2(2020)年度をピークに減少傾向、事業系ごみは平成 30(2018)年度から令和 3（2021）年度まで横這い傾向で令和 4（2022）年度に減少し、直接搬入ごみは令和 2(2020)年度をピークに減少傾向にあります。集団・拠点回収量は減少傾向であったものが令和 4(2022)年度で増加しています。

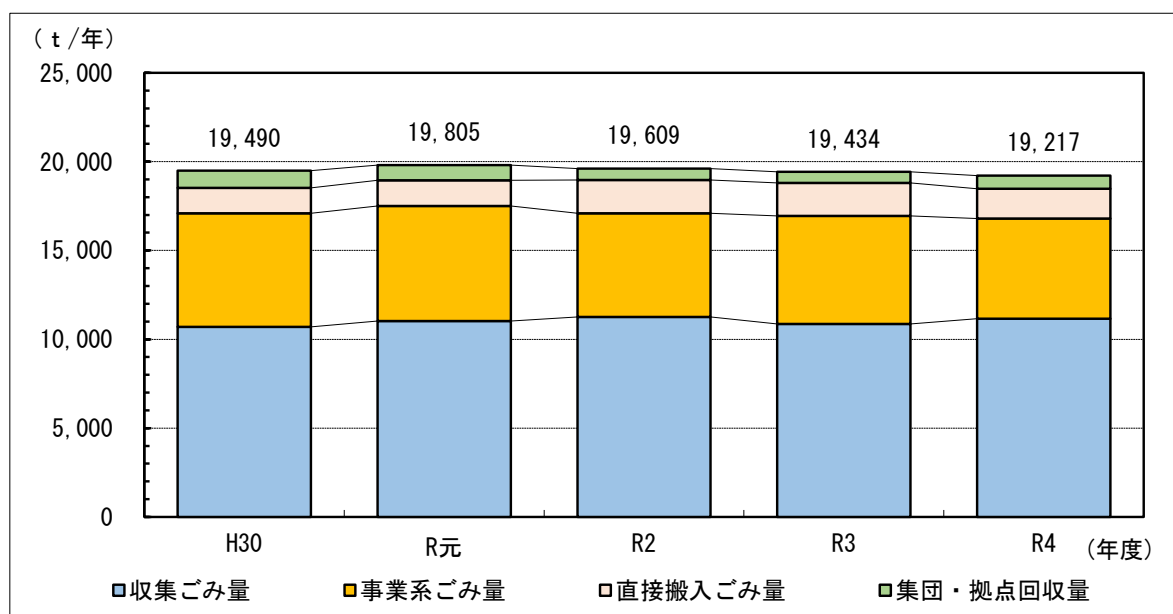


図 9 ごみ排出量（排出形態別）

表 3 ごみ排出量（排出形態別）

(単位:t/年)

年度		H30	R元	R2	R3	R4
収集ごみ量(家庭から出たごみ)		10,702	11,020	11,254	10,861	11,165
内訳	可燃ごみ	9,814	10,122	10,277	9,859	10,104
	不燃ごみ	124	130	138	143	288
	粗大ごみ	209	202	247	248	205
	資源ごみ	555	566	592	611	568
直接搬入ごみ量(家庭から出たごみ)		—	—	—	—	141
集団・拠点回収量(家庭から出たごみ)		959	853	636	625	743
事業系ごみ量		6,391	6,478	5,840	6,078	5,629
内訳	可燃ごみ	6,078	6,154	5,514	5,765	5,339
	不燃ごみ	251	259	248	235	226
	粗大ごみ	62	63	78	78	64
直接搬入ごみ量(事業系ごみ)		1,436	1,453	1,878	1,868	1,540
内訳	可燃ごみ	845	845	1,035	991	978
	不燃ごみ	253	263	418	449	213
	粗大ごみ	338	345	425	428	349
ごみ総排出量(合計)		19,490	19,805	19,609	19,434	19,217

※ 各数値を四捨五入しているため、合計値において±1(t)の誤差が生じている場合がある

2. 分別ごみの収集量

本市では、平成 10(1998)年度に分別収集が開始され、現在は市内全域で 12 品目の分別ごみを収集しています。収集された分別ごみのうち、陶磁器以外は資源ごみとして再生利用されています。資源ごみのうち、容器包装廃棄物については、古賀市分別収集計画で分別の区分や排出抑制のための方策等を示しています。

分別ごみ(12品目)の収集量は図 10、表 4 に示すとおりであり、分別収集の収集量と市内の公共施設等に設置している資源回収ボックス(紙パック・容器包装プラスチック・ペットボトル)の収集量の合計です。

分別ごみの量は、平成 30(2018)年度以降、増加傾向にあります。

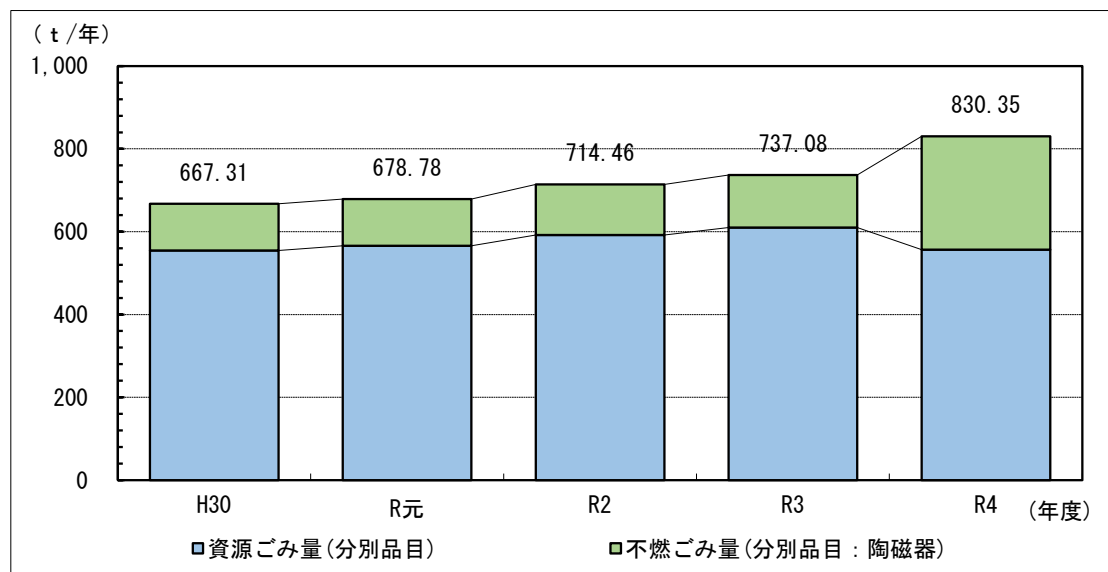


図 10 分別ごみ収集量

表 4 分別ごみ収集量

(単位:t/年)

年度		H30	R元	R2	R3	R4	
分別収集回収量		657.17	665.63	694.22	710.45	797.18	
内訳	資源	缶	5.31	5.53	8.29	10.75	11.26
		びん	201.36	199.68	195.44	207.64	199.85
		ガラス	50.96	44.91	52.40	38.05	34.94
		蛍光管	5.00	4.32	4.54	3.95	3.66
		乾電池	11.88	12.06	13.15	12.82	12.33
		紙パック	8.23	8.43	8.91	9.00	7.07
		梱包材	5.66	5.30	5.24	5.56	5.29
		ペットボトル	47.57	46.36	46.88	54.04	44.88
		金属混合物 (スプレー缶含む)	120.39	134.69	149.35	136.22	113.30
		容器包装プラスチック	87.98	91.76	87.41	105.40	90.60
	不燃	陶磁器	112.83	112.59	122.61	127.02	274.00
資源回収ボックス回収量		10.14	13.15	20.24	26.63	33.17	
内訳	資源	紙パック	1.54	1.76	2.16	1.97	2.15
		容器包装プラスチック	3.16	5.45	9.77	15.14	19.61
		ペットボトル	5.44	5.94	8.31	9.52	11.41
合計(資源ごみ)品目		554.48	566.19	591.85	610.06	556.35	
合計(分別収集全品目)		667.31	678.78	714.46	737.08	830.35	

3. 集団回収量・拠点回収量

古紙類（新聞・雑誌・ダンボール）は、市内の各種団体が行う集団回収及びエコロの森、市内4カ所に設置している古紙回収倉庫で収集しています。剪定枝は福津市内の事業所を回収拠点とみなし、収集しています。廃食油は市内6カ所の公共施設等で収集しています。

集団回収量及び拠点回収量は図11、表5に示すとおり減少傾向にありましたが、令和4(2022)年には拠点回収量が増加しています。これは、剪定枝の収集量が増加したことによるものです。古紙類は、集団回収量・拠点回収量ともに減少傾向にあります。

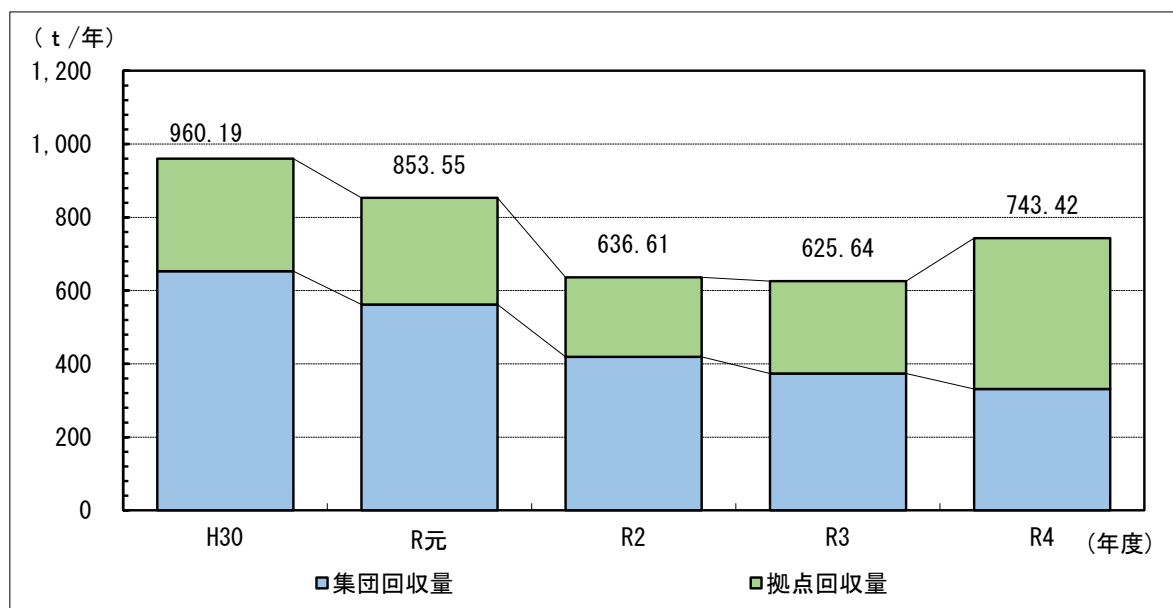


図11 集団回収量・拠点回収量

表5 集団回収量・拠点回収量

年度		H30	R元	R2	R3	R4
集団回収量		653.11	562.39	419.31	374.07	331.58
内訳	古紙類（新聞・雑誌・ダンボール）	644.83	562.39	419.31	374.07	331.58
	剪定枝	8.28	—	—	—	—
拠点回収量		307.08	291.16	217.30	251.57	411.84
内訳	古紙類（新聞・雑誌・ダンボール）	192.73	164.37	148.84	137.87	108.34
	剪定枝	113.65	126.48	68.06	113.05	303.00
	廃食油	0.70	0.31	0.40	0.65	0.50
回収量合計		960.19	853.55	636.61	625.64	743.42

- ※ 古賀市古紙類集団回収奨励金は令和4(2022)年で終了している
- ※ 剪定枝等集団回収奨励金は平成29(2017)年度末に終了している
平成27(2015)年度から平成29(2017)年度までは剪定枝チップ購入補助金を実施し、令和2(2020)年以降は福津市内の事業所に持ち込みできるようになった
- ※ 剪定枝は福津市内の事業所を回収拠点とみなし収集している

4. 埋め立てられるごみの量

古賀清掃工場(エコロの森)の焼却処理後の焼却残渣については、最終処分場に埋立処分しています。平成 22(2010)年度から焼却残渣については山元還元による再資源化に取り組んでいます。令和 4(2022)年度からは埋立搬入重量に山本還元を反映し、埋立処分量はかなり少なくなっています。不燃物については、令和元(2019)年度以降増加傾向にあります。

分別収集や直接搬入等で集められた不燃ごみ(ブロック、陶磁器、がれき等)は古賀市不燃物埋立地に搬入され、埋立処分しています。埋め立てられたごみの量は、図 12、表 6 に示すとおりです。

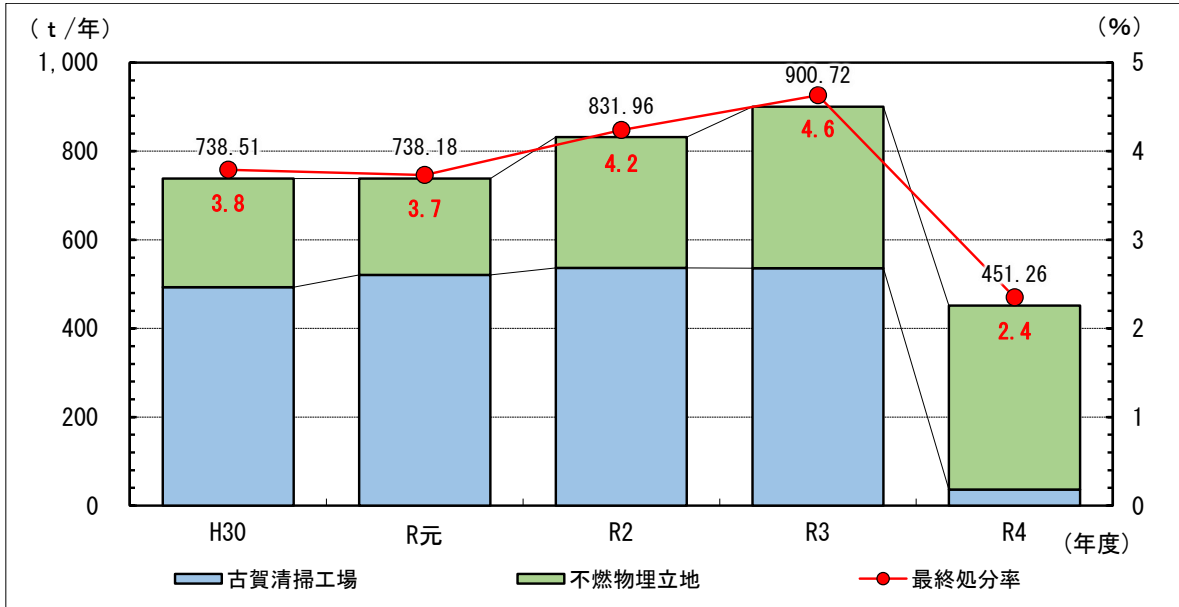


図 12 埋立処分量

表 6 埋立処分量

年度			H30	R元	R2	R3	R4
古賀清掃工場 ^{※1} (焼却残渣等埋立)	搬入重量	t/年	493.2	521.1	536.9	535.7	36.3
	搬入容量	m ³ /年	153.3	135.7	184.4	228.1	259.4
不燃物埋立地 ^{※2}	搬入重量	t/年	245.3	217.1	295.1	365.0	415.0
	搬入容量	m ³ /年	153.3	135.7	184.4	228.1	259.4
最終処分量合計		t/年	738.5	738.2	832.0	900.7	451.3
ごみ総排出量		t/年	19,489.6	19,805.1	19,608.7	19,433.5	19,217.4
最終処分率		%	3.8	3.7	4.2	4.6	2.4

※1 搬入重量は焼却量による按分

※2 搬入重量及び搬入容量は、搬入車両積載量による推計値 搬入容量=搬入重量/1.6として換算

表 7 古賀市不燃物埋立地処分可能量【古賀市災害廃棄物処理計画 (H30 策定)】

施設名	埋立容量 (覆土を含む)	残余容量 [※]	10年後残余容量	埋立終了予定
古賀市不燃物埋立地	258 m ³ /年	15,358 m ³	19,167 t	令和 59(2077)年

※ 残余容量は平成 29(2017)年度の実績に基づく

※ 埋立容量は過去 10 年間の平均

5. ごみの性状について

資源化が可能な物品の混入割合のデータを収集し、市民の分別意識を把握するとともに、今後の一般廃棄物に関する施策を検討するための基礎資料とすることを目的として、古賀市の家庭から出た可燃ごみの組成調査を実施しました（資料編 P47 参照）。

本調査は令和 4(2022)年 11 月に市内 4 地域（山間住宅地、新興住宅地、共同住宅、商業地区）の家庭から出た可燃ごみを地域ごとにほぼ同量ずつサンプリングし、水分を含んだ状態の湿組成と乾燥させて水分を除いた乾組成の 2 種類で計測したもので、分析結果は、図 13 に示すとおりです。

これによると、湿組成では、厨芥類(生ごみ)が 31.0%で最も多く、次いで紙類 28.4%、プラスチック類（容器包装・製品）18.8%、布類 15.9%となっています。乾組成では、紙類が 31.1%で最も多く、次いで厨芥類 22.5%、布類 20.6%、プラスチック類（容器包装・製品）19.1%となっています。

紙類やプラスチック類（容器包装）は可燃ごみに占める比率が大きく、更なる資源化が期待される品目です。

また、厨芥類は湿組成と乾組成で比率の差が大きく、これは水分が多く含まれていることによるものです。

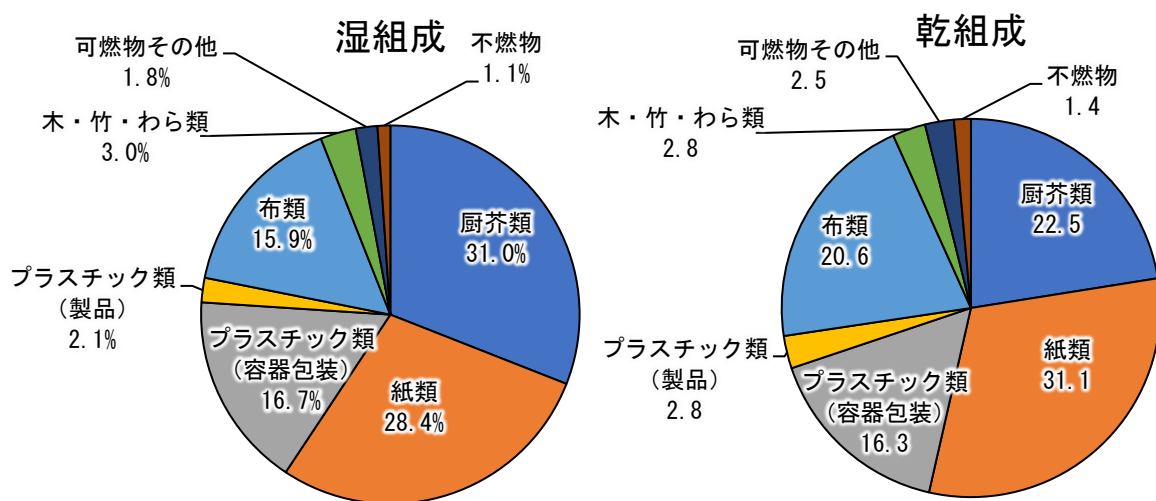


図 13 家庭から出る可燃ごみの組成調査結果（令和 4(2022)年）

第3節 ごみ処理方法

1. ごみ処理施設

(1) 古賀清掃工場(エコロの森)

平成15(2003)年4月から古賀清掃工場(エコロの森)へ可燃ごみ・不燃ごみ(陶磁器、ブロック、がれき等以外)・資源ごみを搬入し処理をしています。

ここでは、焼却処理・破砕選別処理・焼却残渣の最終処分が行われています。

表8 古賀清掃工場(エコロの森)概要

施設所管	玄界環境組合
設置場所	古賀市筵内1970番地1
建築面積	6,323 m ²
焼却処理施設	
処理能力	260 t/日 (130 t/日×2炉)
処理方式	熱分解熔融方式
建設年度	着工 : 平成12(2000)年11月
	竣工 : 平成15(2003)年3月
	本格稼働 : 平成15(2003)年4月
施行・管理	アジア航測 株式会社
設計・施工	三井造船 株式会社
リサイクルプラザ	
処理能力	48 t (48t/5h)
破砕方式	低速破砕機+高速破砕機
選別設備	磁選機 2基
	精度選別機 1基
	アルミ選別機 2基
	手選別コンベア 4基
設計・管理	アジア航測 株式会社
プラント工事	株式会社 栗本鉄工所
最終処分場	
埋立対象物	焼却残渣
埋立工法	クレーンによる積み増し工法
埋立容量	11,505 m ³
累積埋立処分量	112 m ³ (令和5(2023)年12月1日時点)
残余容量	11,393 m ³ (令和5(2023)年12月1日時点)
埋立完了予定	令和14(2032)年度

<玄界環境組合構成市町>

古賀市、福津市、宗像市、新宮町

1) 焼却処理施設について

焼却処理施設には、可燃ごみ、リサイクルプラザに搬入された資源ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ（可燃・不燃）のうち、資源不適物や破碎処理残渣（可燃物）が搬入されます。

無酸素状態で 450℃の熱処理による分解後、混入している金属類を分離・回収します。その後、1,300℃の高温燃焼で熔融処理され、灰分は熔融後スラグとして回収されます。高温で処理するため、ダイオキシンの発生が抑制されます。さらに、平成 22(2010)年度からは焼却残渣の飛灰と脱塩残渣を山元還元により再資源化し、最終処分場で処分する焼却残渣量を減少しています。

表 9 焼却処理内訳

年度		H30	R 元	R2	R3	R4	
焼却量	t /年	17,573	18,007	17,875	17,672	17,332	
内訳	直接焼却量	t /年	16,880	17,262	16,966	16,749	16,557
	リサイクルプラザ処理残渣	t /年	693	746	909	924	775
焼却残渣資源化量	t /年	1,217	1,258	1,273	1,162	1,219	
焼却残渣量(資源化物除く)	t /年	493	521	537	536	531	
焼却残渣率(資源化物除く)	%	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1	

2) リサイクルプラザについて

リサイクルプラザには、資源ごみや不燃ごみ、破碎処理が必要な粗大ごみ（可燃・不燃）等が搬入されます。

資源ごみは種類別に選別・圧縮・梱包などの中間処理が行われ、その後に資源物として再生業者に引き渡されます。

不燃ごみ、粗大ごみは必要に応じて破碎処理が行われ、資源化が可能な部分を取り出し、資源化が不可能な破碎処理残渣（可燃物）は、焼却処理施設に送られます。

表 10 リサイクルプラザ処理内訳

年度		H30	R 元	R2	R3	R4
処理量(搬入量)	t /年	1,274	1,318	1,524	1,516	1,372
リサイクルプラザ資源化量	t /年	581	572	615	592	597
リサイクルプラザ処理残渣	t /年	693	746	909	924	775
リサイクルプラザ資源化率	%	45.6	43.4	40.3	39.1	43.5
リサイクルプラザを経由しない直接資源化量	t /年	131	155	187	179	130

3) 最終処分場について

焼却処理施設で処理された焼却残渣は埋立処分していましたが、平成 22(2010)年度からは焼却残渣の飛灰と脱塩残渣については山元還元による再資源化に取り組んでおります。

(2) 古賀市不燃物埋立地

古賀市不燃物埋立地では、家庭から出る不燃ごみのうちブロック、陶磁器、がれき等を埋立処分しています。また、分別収集で回収された陶磁器についても、焼却処理が困難なため埋立処分しています。

表 11 古賀市不燃物埋立地 概要

施設名	古賀市不燃物埋立地
施設所管	古賀市
設置場所	古賀市青柳町 444-2 番地（他 6 筆）
埋立対象物	家庭から出るブロック、陶磁器、がれき等
埋立地面積	7,412 m ²
埋立容量	25,381 m ³
残余容量※	15,358 m ³
埋立開始年	昭和 62(1987)年 7 月
埋立工法	準好気式埋立
排水の処理方法	砂ろ過方式

※ 残余容量は平成 29(2017)年度の実績に基づく

2. 資源化率

資源化率は、排出されたごみの量から資源化されたごみの総排出量に対する割合を示す値で、その推移は図 14、表 12 に示すとおりです。

古賀清掃工場(エコロの森)では、焼却処理時の金属回収や焼却残渣のスラグ化により、金属やスラグを資源物として回収しています。

また、資源化率は、県内平均・全国平均を下回って推移しています。県内平均・全国平均を下回って推移している主な要因として、他自治体と比較して家庭から出るごみの内訳における可燃ごみの比率が高いこと、集団回収により資源化されるごみの比率が低いこと、事業系の資源ごみが計上されていないことがあげられます。

なお、古賀市から排出される資源ごみは表 13 のとおり再生利用されています。

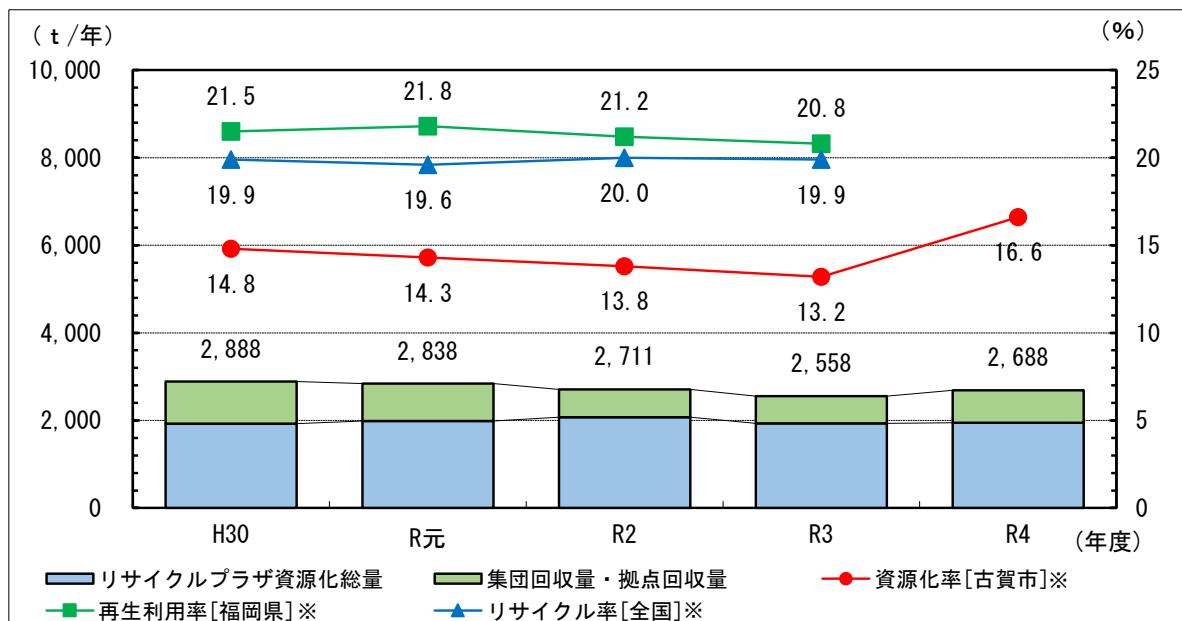


図 14 資源化率の推移

※ 「資源化率」「再生利用率」「リサイクル率」は資源化を示す指標で、本計画では同義語として使用

表 12 資源化率の推移

年度		H30	R元	R2	R3	R4	
リサイクルプラザ資源化総量	t/年	1,928	1,985	2,075	1,933	1,946	
内訳	焼却施設残渣資源化量	t/年	1,217	1,258	1,273	1,162	1,219
	リサイクルプラザ資源化量	t/年	581	572	615	592	597
	リサイクルプラザ直接資源化量	t/年	131	155	187	179	130
	山元還元	t/年	—	—	—	—	495
集団回収量・拠点回収量	t/年	959	853	636	625	743	
リサイクル総量	t/年	2,888	2,838	2,711	2,558	3,184	
ごみ総排出量	t/年	19,490	19,805	19,609	19,434	19,217	
資源化率[古賀市]	%	14.8	14.3	13.8	13.2	16.6	
再生利用率[福岡県]	%	21.5	21.8	21.2	20.8	—	
リサイクル率[全国]	%	19.9	19.6	20.0	19.9	—	

※ 各数値を四捨五入しているため、「ごみ総排出量」の値において±1(t)の誤差が生じている場合がある

※ 令和 4(2022)年度の福岡県の再生利用率及び全国のリサイクル率は、令和 6(2024)年 2 月 13 日現在未発表

※ 本計画の見直しに伴い、令和 4(2022)年度からリサイクル総量に山元還元分を含めている

表 13 資源ごみから製造される主な再生利用品

資源ごみ		主な再生利用品
缶	アルミ	アルミ製品
	鉄	鉄製品
びん	無色	無色びん
	茶色	茶色びん
	その他	ガラス造粒砂(路盤材)
ガラス		スラグ
蛍光管		蛍光管
乾電池		鉄鋼製品、亜鉛地金
梱包材		プラスチック製品
ペットボトル		プラスチック製品
金物		アルミ、鉄製品
容器包装プラスチック		プラスチック製品
紙パック		トイレットペーパー
新聞		新聞
雑誌		再生紙
ダンボール		ダンボール
剪定枝		チップ
廃食油		ボイラー燃料

3. ごみ処理量

ごみ処理量は、ごみ総排出量から資源化された量を引いたものであり、資源化されない量を表します。その推移は図 15、表 14 に示すとおりです。

人口は微増傾向にある中で、全体の「ごみ処理量（資源化されない量）」及び「1日1人当たり処理量」については、令和3年度までほぼ横ばい傾向にありますが、事業系ごみ量の減少や令和4(2022)年度から資源化総量に山元還元分を含めているため、令和4(2022)年度は減少しています。

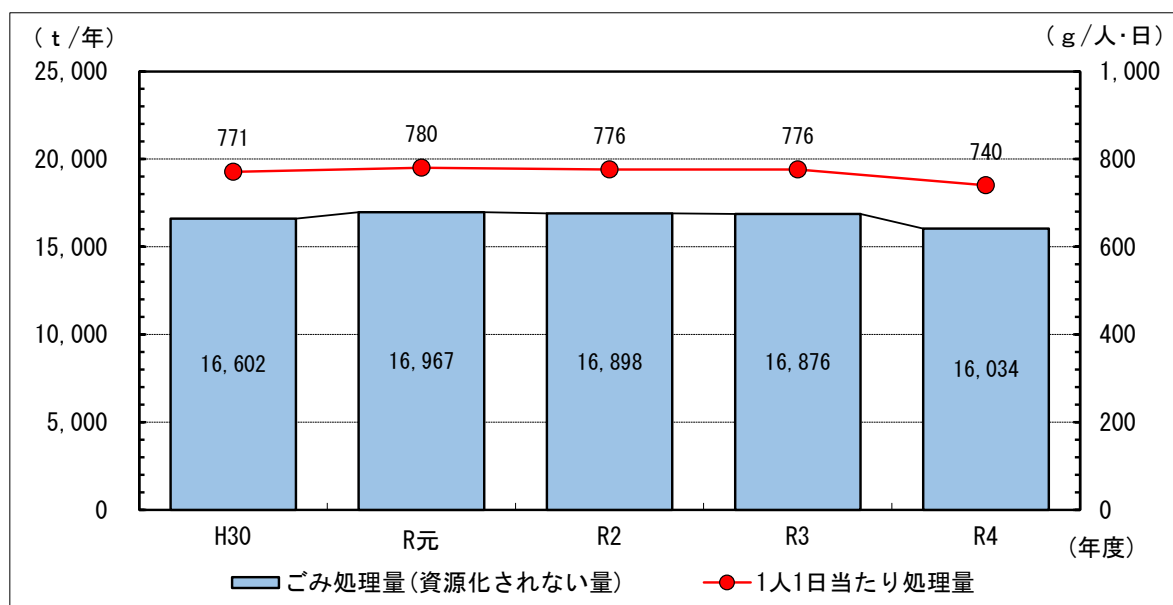


図 15 ごみ処理量の推移

表 14 ごみ処理量の推移

年度		H30	R元	R2	R3	R4
ごみ処理量(資源化されない量)	t/年	16,602	16,967	16,898	16,876	16,034
ごみ総排出量	t/年	19,490	19,805	19,609	19,434	19,217
資源化総量	t/年	1,928	1,985	2,075	1,933	2,441
集団・拠点回収量	t/年	959.5	853.2	636.2	625.0	742.9
人口	人	58,993	59,444	59,694	59,565	59,346
1人1日当たり処理量	g/人・日	771	780	776	776	740

※ 各数値の小数点以下を四捨五入しているため、内訳と合計値の間で±1(t)の誤差が生じている場合がある

4. ごみ処理事業経費

古賀市が負担したごみ処理事業経費は、図 16、表 15 に示すとおりです。

令和元(2019)年度以降は、処理及び維持管理費が増加傾向であり、令和 4(2022)年度は 1 人当たりに換算して 15,281 円の負担となっています。

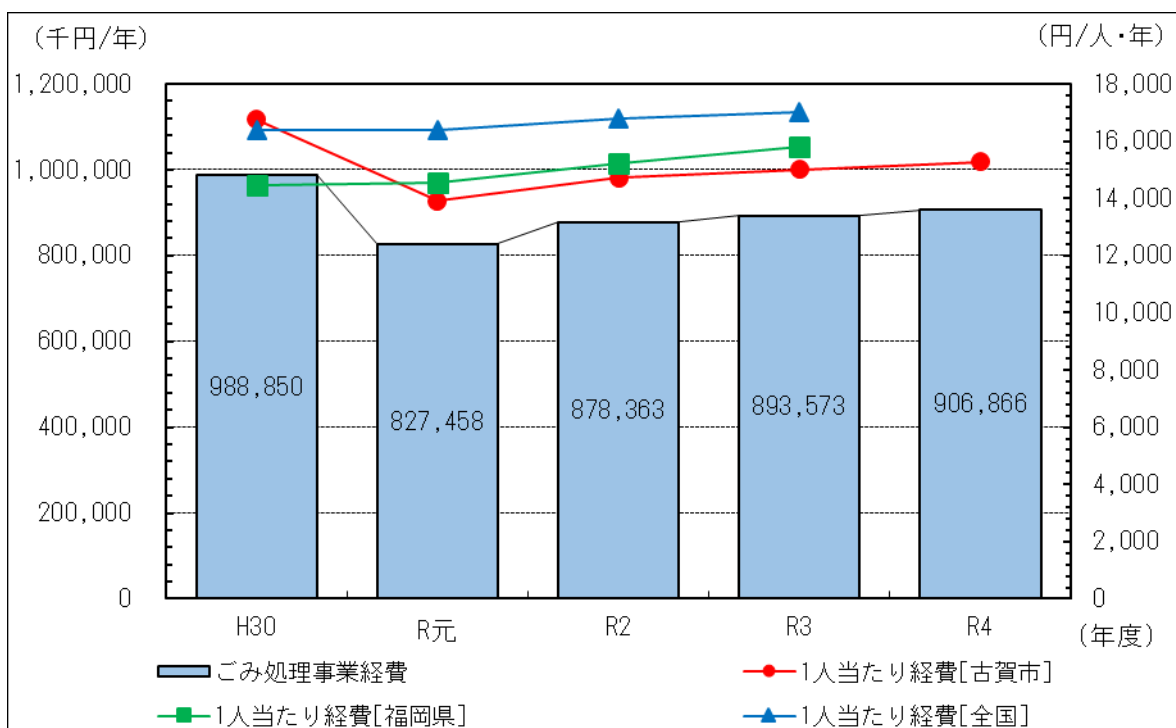


図 16 ごみ処理事業経費の推移 (1 人当たり換算)

表 15 ごみ処理事業経費の推移 (1 人当たり換算)

年 度		H30	R 元	R2	R3	R4	
ごみ処理事業経費	千円/年	988,850	827,458	878,363	893,573	906,866	
(内訳)	建設改良費	千円/年	632	0	0	0	
	処理及び維持管理費	千円/年	904,010	797,925	844,741	869,188	876,143
	起債償還	千円/年	54,781	0	0	0	0
	その他	千円/年	29,427	29,533	33,622	24,385	30,723
人 口	人	58,993	59,444	59,694	59,565	59,346	
1 人当たり経費[古賀市]	円/人・年	16,762	13,920	14,714	15,002	15,281	
1 人当たり経費[福岡県]	円/人・年	14,441	14,553	15,229	15,783	—	
1 人当たり経費[全国]	円/人・年	16,400	16,400	16,800	17,000	—	

※ 上記ごみ処理事業経費は、当該年度に古賀市が負担した経費を示している

※ 令和 4(2022)年度の福岡県及び全国の 1 人当たり経費は、令和 6(2024)年 2 月 13 日現在未発表

※ 福岡県と全国の一人当たりの経費に起債償還分は含まれていない

第4節 実施施策の評価と今後の取組への課題

1. 第2次計画の指標について

第2次計画で設定した目標は、「家庭系ごみ（1人1日当たり）のごみ処理量」、「事業所のごみ処理量（1人1日当たり換算）」、「資源化率」の3項目です。

令和4(2022)年現在の各指標の進捗状況を表16に、実績値の推移を図17に示します。

これによると、「家庭系ごみ（1人1日当たり）のごみ処理量」は横ばい傾向にあり、令和4(2022)年度は409gで、計画目標値405gに達していません。「事業所のごみ処理量（1人1日当たり換算）」は緩やかな減少傾向にあり、令和4(2022)年度は331gと、計画目標値346gに達しています。減少傾向にあった「資源化率」は、令和4(2022)年度に16.6%まで上昇しましたが、計画目標値17.5%に達していません。

表16 第2次計画目標の進捗状況

項目	計画基準 平成26(2014)年度	実績値 令和4(2022)年度	計画目標 令和5(2023)年度
総人口 (令和元(2019)年度 計画改定時の想定値)	58,322人 (58,322人)	59,346人 (60,978人)	— (61,105人)
家庭系ごみ(1人1日当たり) のごみ処理量*	410g	409g	405g
事業所のごみ処理量 (1人1日当たり換算)	350g	331g	346g
資源化率	17.3%	16.6%	17.5%

※ 第2次計画における「家庭系ごみ」は、市民の日常生活から出るごみを指し、「家庭系ごみの処理量」は、家庭系ごみから資源化されるごみ（剪定枝、古紙など）を除いた値を指す

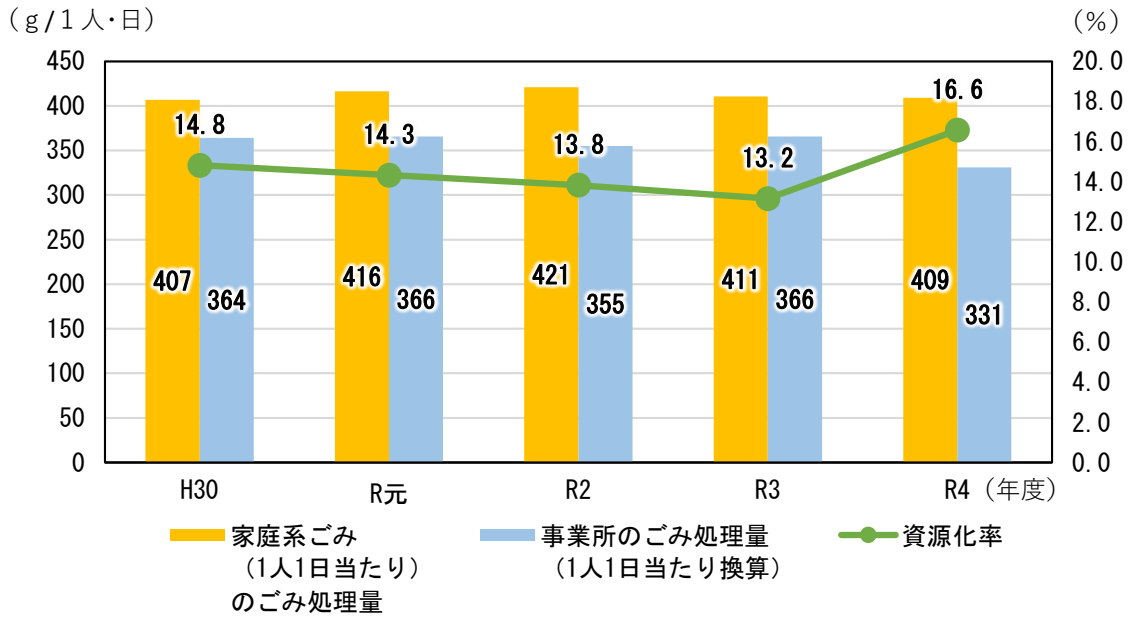


図 17 1人1日当たりのごみ処理量と資源化率の推移

表 17 ごみ処理量と資源化率の実績値 (参考)

年度	H30	R元	R2	R3	R4
ごみ総排出量 (t) 《A》	19,490	19,805	19,609	19,434	19,217
リサイクル総量 (t) 《B》	2,888	2,838	2,711	2,558	3,184
リサイクル総量 (t) の内、山元還元が占める量*	-	-	-	-	495
ごみ処理量 (t) 《A-B》	16,602	16,967	16,898	16,876	16,033
人口 (人)	58,993	59,444	59,694	59,565	59,346
1人1日当たりのごみ処理量 (g) (家庭系+事業所系) 《ごみ処理量÷人口÷365日》	771	782	776	776	740
家庭系ごみ (1人1日当たり) のごみ処理量 (g)	407	416	421	411	409
事業所のごみ処理量 (1人1日当たり換算) (g)	364	366	355	366	331
資源化率 (%) 《B÷A×100》	14.8	14.3	13.8	13.2	16.6

※ 本計画の見直しに伴い、令和4(2022)年度からリサイクル総量に山元還元分を含めている

2. 第2次計画期間の主な取組

第2次計画期間で実施した主な取組を表18、表19に示します。

表18 第2次計画期間に実施した主な取組

実施時期	ごみ収集・ごみ削減・資源回収	補助金・奨励金	啓発
平成26(2014)年度			・家庭ごみの出し方パンフレット改定
平成27(2015)年度		・剪定枝チップ機購入費補助開始	
平成28(2016)年度			
平成29(2017)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモス広場、リーパスプラザこがに古紙回収倉庫設置 ・小型家電回収開始回収ボックスの設置 ・リネットジャパンとの協定パソコン無料回収開始 ・古布の回収終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・剪定枝等集団回収奨励金終了 ・剪定枝チップ機購入費補助終了 	・家庭ごみの出し方パンフレット改定
平成30(2018)年度			
令和元(2019)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・小型充電式電池(リチウムイオン電池等)回収開始 ・インクカートリッジ回収開始 		・家庭ごみの出し方パンフレット(英語版)作成
令和2(2020)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所分別収集開始 ・福津市の事業所への市民剪定枝受入開始 		<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールコンポスト講座(親子向け)開始 ・家庭ごみの出し方パンフレット改定 ・事業者用ごみパンフレット作成
令和3(2021)年度			・行政区を対象とした分別収集困りごと講座開始
令和4(2022)年度	・市役所フードドライブ開始	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理機器購入費補助金終了 ・古紙類集団回収奨励金終了 	・てまえどりPOP作成
令和5(2023)年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい収集開始 ・廃食油回収ボックス設置 		

表19 第2次計画期間における一般廃棄物処理手数料(可燃ごみ袋料金)改正履歴

施行・改正時期	家庭用ごみ袋(10枚)			事業用ごみ袋(10枚)		粗大ごみ処理シール	根拠法、その他
	大45ℓ	小30ℓ	ミニ20ℓ	大70ℓ	小45ℓ		
第2次計画策定時 平成26(2014)年 3月時点	600円	350円	200円	1,000円	700円	500円	
平成27(2015)年 7月1日	617円	359円	205円	1,028円	719円	514円	平成26(2014)年4月の消費増税に伴う手数料の改正
令和元(2019)年 10月1日	629円	366円	209円	1,047円	732円	523円	令和元(2019)年10月の消費増税に伴う手数料の改正

3. 第2次計画における現状と課題について

第2次計画では、基本理念『市民・事業者・行政の共働による質にも着目した「循環型社会」の形成』のもと、以下の基本方針に基づき計画を推進しています。

ここでは、第2次計画における現状と課題について基本方針ごとに整理します。

基本方針	施策
<p>家庭系ごみ対策</p> <p>循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制、再使用、再利用に至るまでの総合的な施策を展開します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「3Rの見える化」など市民に分かりやすい情報の提供 2) 生ごみを減量するための水切りやマイバッグ等の啓発促進 3) 資源化率を上げるための分別品目の検討 4) 廃棄物減量等推進員制度の検討
<p>事業系ごみ対策</p> <p>事業系一般廃棄物については、実態を把握し、事業者との連携を図りながら、ごみ減量・再資源化を推進します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 適正な排出・処理の指導 2) 実態把握調査の実施 3) ごみの減量と資源化に関する啓発や情報提供 4) 資源化率向上のための取り組み 5) 事業者との連携促進 6) 優良事業者への表彰制度の活用
<p>市民・事業者・行政のパートナーシップづくり</p> <p>環境に関する活動について、個人・団体との連携を強化するとともに、情報提供や活動の推進を図ります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 環境活動に関わる個人・団体の連携強化 2) 環境活動に関する情報の提供及び活動の推進
<p>環境教育・普及啓発の充実</p> <p>年齢層に応じた環境教育・学習の充実を図るとともに、環境教育の人材活用、活動の推進を図ります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) ごみに関する環境教育のあり方の再検討 2) 年齢層に応じた環境教育・学習の充実 3) 環境教育の人材活用、活動の推進
<p>ごみ処理に関する体制整備の推進</p> <p>ごみやリサイクルに関する情報の公開を行いながら、より一層のごみ処理事業の効率化に努め、ごみ処理事業における市民サービスの向上を図ります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実態の把握 2) ごみ処理に関する体制の効率化、経費の抑制 3) ごみに関する情報の公開 4) 高齢者や障がい者などに配慮した収集運搬体制の検討 5) 災害時の対策についての施策検討
<p>循環型社会の形成についての調査の継続</p> <p>先進事例を参考にしながら、今後の古賀市に適した廃棄物処理のあり方の研究を継続します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環型社会の形成に関する研究の継続

図 18 第2次計画における基本方針及び施策

(1) 「家庭系ごみ対策」の現状と課題

1) 「3Rの見える化」など市民に分かりやすい情報提供

① 「家庭系ごみの出し方」パンフレット

家庭ごみの出し方パンフレットを平成 26(2014)年度、平成 29(2017)年度、令和 2(2020)年度に作成し、全戸配布しました。

外国籍の市民向けの英語版パンフレットを令和元(2019)年度に作成しました。

② 「3Rの見える化ツール」による環境負荷削減効果の活用

3R に一つの R (Refuse リフューズ) を加えた 4R の取組による二酸化炭素排出量削減などの環境負荷削減効果について、市ホームページや広報などに掲載しています。

コラム 3Rから4Rへ

3R は環境と経済が両立した循環型社会を形成していくための 3 つの取組のことで、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) の頭文字を取っています。第 2 次古賀市ごみ処理基本計画策定時は 3R を推進していましたが、ごみ自体を発生させない Refuse(リフューズ)の考え方も重要であることから、現在古賀市では 3R の前に 1R (リフューズ) を加えた 4R を推進しています。

【1】断ろう (Refuse リフューズ) ごみになる物は発生源から断ちましょう

【2】減量しよう (Reduce リデュース) ごみとなる物が少なくなるよう行動しましょう

【3】繰り返し使おう (Reuse リユース) 使わなくなった物は他に活用する方法を考えましょう

【4】再資源化しよう (Recycle リサイクル) 資源は積極的にリサイクルし、有効活用を進めましょう

③分別収集による資源化効果の情報提供

【古紙】

平成 29(2017)年度にコスモス広場とリーパスプラザこがに古紙回収倉庫を設置し、市内 4 か所で古紙の拠点回収を行っています。

古紙類集団回収奨励金制度については、令和 4(2022)年度末をもって終了しました。

【剪定枝】

平成 23(2011)年度から行っていた古賀市剪定枝等集団回収奨励金は、平成 29(2017)年度末をもって終了しました。平成 27(2015)年度から平成 29(2017)年度の間、古賀市剪定枝チップ器購入費補助金を実施しています。令和 2(2020)年 11 月から、福津市内の事業所に剪定枝の直接搬入ができるようになり、資源として再利用されています。

【廃食油】

令和 5(2023)年度から古賀市役所環境課、サンコスモ古賀、サンリブ古賀店に廃食油回収ボックスを設置し、廃食油の回収効率化に取り組んでいます。



市役所に設置している
廃食油回収ボックス

④他自治体の事例などの調査研究

他自治体の事例を踏まえ、市ホームページに4Rの推進について掲載しています。

⑤3Rの取組の情報提供

4Rの具体的な取組について市ホームページや家庭ごみの出し方パンフレットに例示することにより、対象者のライフスタイルに合わせて、無理なく4Rの取組ができる情報提供を行っています。

2) 生ごみを削減するための水切りやマイバック等の啓発促進

①イベント等を利用した啓発

イベントや広報こがにおいて、市のごみの現状や生ごみ減量の重要性を啓発し、生ごみの減量方法として生ごみの水切りを呼びかけています。

②生ごみ処理機器の補助金等に関する実態調査

令和元(2019)年度に実態調査を実施しました。(資料編P41参照)

生ごみ処理機器購入補助金については令和4(2022)年をもって終了しました。

3) 資源化率を上げるための分別品目の検討

①「リサイクルの見える化」による分別収集への取組の推進

市ホームページに年度ごとの資源化量や集団回収量及び回収の効果について掲載しています。

②新規分別収集品目の検討

令和4(2022)年度に福岡県の支援を受け、プラスチック分別収集・再商品化に係る実証を実施しました。(資料編P16参照)

4) 廃棄物減量等推進員制度の検討

4Rに関する普及啓発や市民と事業者の連携による取組を推進するため、廃棄物減量等推進員制度の導入に向けた検討を行うこととしていますが、現時点では導入に至っていません。

【家庭系ごみ対策の課題】

「家庭系ごみ(1人1日当たり)のごみ処理量」は横ばい傾向にあり、令和4(2022)年度は409gで、令和5(2023)年度の計画目標値405gには達していません。

これまで、3Rに関する市民への啓発や生ごみの減量、分別収集の実施等の資源化などの施策は実施してきており、市民のごみの減量・資源化の意識は高いものとなっています。

今後の人口変化と現状の施策の継続では、家庭系の1人1日当たりごみ処理量は、横ばいの傾向になると予想されます。今後はごみの減量・資源化施策として、分かりやすい情報発信やライフスタイルに合わせた啓発を推進していくとともに、資源化する品目を増やすなどの資源化率を上げる施策を充実していくことで、ごみの排出量を減らしていくことが必要です。

(2) 「事業系ごみ対策」の現状と課題

1) 適正な排出・処理の指導

事業系ごみの適正な排出を促すため、多量排出事業所から提出される減量に関する計画書をもとに指導を行っています。

2) 実態把握調査の実施

令和4(2022)年度に事業者アンケートを実施しました。(資料編 P34 参照)

3) ごみ減量と資源化に関する啓発や情報提供

①事業者訪問によるごみ減量化・資源化の啓発・指導

毎年、市内事業所を訪問し、調査指導を行っています。

②事業者用パンフレットの作成

令和2(2020)年度に事業者用ごみパンフレットを改定しました。

③「3Rの見える化ツール」による環境負荷減削減効果の活用

3R に一つの R (Refuse リフューズ) を加えた 4R の取組による二酸化炭素排出量削減などの環境負荷削減効果について市ホームページや広報などに掲載しています。

④他自治体の事例などの調査研究

他自治体の事例を踏まえ、ごみ減量化・資源化について市ホームページに掲載しています。

⑤環境負荷の少ない事業活動への変革のための情報提供

他自治体の事例を踏まえ、SDG s を踏まえた事業活動について市ホームページに掲載しています。

4) 資源化率向上のための取り組み

①新たな資源化ルート構築

市内事業所を訪問し、排出されたごみの積極的な資源化について指導や助言を行っています。

②自主的な資源化の取り組みについての支援

令和2(2020)年度に事業者用ごみパンフレットを改定しました。

5) 事業者との連携促進

不定期ですが、必要に応じて減量や資源化の取り組みを率先して行っている事業者相互の情報交換が行える場を設けています。

直近では、令和4(2022)年10月11日にサンリブ古賀店にて食品ロス対策を主題として意見交換会を開催しました。

6) 優良事業者への表彰制度の活用

古賀市ごみ減量化推進優良事業所の認定を実施しています。

また、ごみ減量化の推進で顕著な功績のあった事業所に対して「古賀市ごみ減量化最優良事業所」として表彰しています。



表 20 古賀市ごみ減量化優良事業所認定一覧

認定番号	事業所名	認定時期
第 1 号	ヤマザキ製パン(株)福岡工場	平成 29(2017)年 12 月
第 2 号	(株)カイセイ	平成 30(2018)年 1 月
第 3 号	(株)ピエトロ	平成 30(2018)年 2 月
第 4 号	医療法人 聖恵会	平成 30(2018)年 9 月
第 5 号	福岡倉庫(株)古賀営業所	平成 30(2018)年 9 月
第 6 号	ホームプラザナフコ古賀店	平成 30(2018)年 10 月
第 7 号	くまや蒲鉾(株)	平成 30(2018)年 10 月
第 8 号	環境開発工業(株)	平成 30(2018)年 12 月
第 9 号	(株)古賀環美サービスセンター	平成 30(2018)年 12 月
第 10 号	小寺油脂(株)	平成 31(2019)年 4 月
第 11 号	粕屋北部消防本部	令和 2(2020)年 8 月
第 12 号	(株)LIXIL トータルサービス九州支店	令和 4(2022)年 4 月
第 13 号	日本食品(株)	令和 4(2022)年 5 月
第 14 号	(株)アクタ	令和 5(2023)年 12 月

【事業系ごみ対策の課題】

「事業所のごみ処理量(1人1日当たり換算)」は緩やかな減少傾向にあり、令和4(2022)年度は331gと、令和5(2023)年度の計画目標値346gに達しています。

これまで、多量排出事業者への事業系ごみの適正処理の指導や、市内事業者への訪問調査や啓発、ごみ減量化推進優良事業所への表彰制度等の施策を実施し、事業系ごみの減量化と資源化に努めています。

効果を引き続き継続させるため、今後も適正な排出や処理の指導、実態を把握する調査やごみの減量・資源化に向けた啓発や情報提供を推進していく必要があります。

(3) 「市民・事業者・行政のパートナーシップづくり」の現状と課題

1) 環境活動に関わる個人・団体の連携強化

① 「ぐりんぐりん古賀」を中心とした資源循環に関する環境教育の推進

古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)が行うぐりんぐりんフェスタのパネル展や、各種清掃活動、「KOGA 環境ひろば」を通じて資源循環に関する環境教育を推進しました。

【古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)主催のイベント】

「るんるん♪ごみ拾い」では、市内中学校にボランティア参加を呼びかけ、ごみ拾いの後、組成調査を行いました。

【古賀市主催のイベント】

令和4(2022)年度から開催している「KOGA 環境ひろば」では、古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)を含む環境啓発活動を行う団体と連携し地球温暖化や資源循環、生物多様性や動物愛護など幅広く啓発活動を行っています。



KOGA 環境ひろば

コラム 古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)

古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)は、人と自然が共生し、持続的に発展することができる「共働の環」の実現のため、多様な主体(市民、ボランティア団体、事業者、市など)が集い、活動する、開かれた共働ネットワークです。

活動内容は生態系保全活動や生物調査、ポイ捨てごみの組成調査や河口の清掃活動など多岐にわたります。



古賀市環境市民会議(ぐりんぐりん古賀)による環境教育

②環境と密接に関わり合う主体とのネットワークの強化

市内及び近郊の企業や団体等が集まり、環境の視点からそれぞれの活動内容についての発表を行い、交流する場としている「KOGA 環境活動じまん！」を令和4(2022)年度から開催しています。資源循環の分野では、海岸の清掃活動や河口で採取されたごみの組成調査の発表がありました。



KOGA 環境活動じまん！

2) 環境活動に関する情報の提供及び活動の推進

①「つながりひろば」の活用による情報発信の強化

つながりひろばを通じて、つながりひろば登録団体や市民を対象に、清掃活動やごみ組成調査などの環境保全活動を行う「環境ボランティア体験」への参加を呼びかけ、多数の参加に繋がっています。

コラム つながりひろば

「つながりひろば」は、公益のために活動する市民活動団体、またはこれから活動を始めたいと思う方の支援を行う市の施設です。



つながりひろばでの古布ティッシュ切り

②地域清掃活動への支援・活動の推進

アダプトプログラムによる市内の事業者を中心とした団体の積極的な美化活動、市民・事業者による海岸の一斉清掃(ラブアース・クリーンアップ)、地域コミュニティやボランティア団体による清掃活動等に対して支援を行っています。



【市民・事業者・行政のパートナーシップづくりの課題】

これまでは、「ぐりんぐりん古賀」や「つながりひろば」の活動を活用し、市民・事業者・市がそれぞれの役割と責務のもとに、ごみの減量・資源化を推進する環境づくりに努めてきました。令和4(2022)年度には新たな施策として市民・事業者・市が連携した「KOGA 環境ひろば」、「KOGA 環境活動じまん！」を開催しました。

今後は、ごみの減量・資源化への取り組みを進めるため、市民・事業者・市の連携をさらに強化する必要があります。

(4)「環境教育・普及啓発の充実」に関する現状と課題

1) ごみに関する環境教育のあり方の再検討

他自治体の先進的な取り組みを中心に研究を行っています。

2) 年齢層に応じた環境教育・学習の充実

①資源循環に関する小中学校向け「環境プログラム」の活用

「古賀市環境人材バンク」には、資源循環に関する環境アドバイザーが3件(個人1件・団体2件)、環境プログラムが4件登録されていますが、活用には至っていません。(資料編 P5 参照)

コラム 古賀市環境人材バンク

「古賀市環境人材バンク」とは、地域や学校、団体、事業者の方が環境教育や学習会、研修会を開催する際に、主催者の利用申請に応じて、内容に適した「環境アドバイザー」とそのサポートをする「環境サポーター」を派遣する制度です。

②全世代に対応した資源循環に関する環境教育の推進

表 21 に示すとおり、親子向けダンボールコンポスト講座や古賀市まちづくり出前講座を中心に、全世代に対応した資源循環に関する環境教育を実施しています。

表 21 古賀市環境課主催の資源循環に関する講座実施状況

単位：回

プログラム名	R元	R2	R3	R4	R5	計
古賀市まちづくり出前講座 実施回数 「はじめよう！ごみ減量大作戦！！」	1	0	0	0	2	3
ダンボールコンポスト講座 実施回数	0	2	2	2	4	10
古賀市環境人材バンク 活用回数 (資源循環に関する講座)	-	-	0	0	0	0
分別収集困りごと講座 実施回数	-	-	3	2	3	8
外国籍市民を対象としたごみの捨て方講座 実施回数	-	1	0	1	1	3

3) 環境教育の人材活用、活動の推進

①古賀市版「環境カウンセラー」登録制度の活用

市の環境カウンセラー制度である「古賀市環境人材バンク」には、資源循環に関する環境アドバイザーが3件（個人1件・団体2件）、環境プログラムが4件登録されていますが、活用には至っていません。

②資源循環に関する意見交換のための交流の場づくり

減量や資源化の取り組みを率先して行っている団体の相互の情報交換が行える場づくりを検討しましたが、十分な実施には至っていません。

【環境教育・普及啓発の充実の課題】

これまで、年齢層に応じた資源循環に関する環境教育のあり方の再検討や人材活用制度の充実などを図ってきました。

今後も、資源循環に関する環境教育のあり方を検討し、「古賀市環境人材バンク」の活用や新たな教育プログラムの検討、団体間の連携強化を図っていくことが必要です。

(5) 「ごみ処理に関する体制整備の推進」の現状と課題

1) 実態の把握

収集運搬、処理状況、資源化、経費等の実態を把握し、各施策に反映させています。

2) ごみ処理に関する体制の効率化、経費の抑制

①ごみ処理手数料などの経済的手法の活用

ごみ処理に係る市民や事業者の負担の公平性の確保を図りながら、一層のごみの減量と資源化を促進するため、ごみ処理量やごみ処理手数料等の数値を比較することにより、ごみ袋料金の適正価格について分析しています。

②費用対効果をにらんだ収集運搬体制の見直し

一般廃棄物収集運搬委託業者と定期的に打ち合わせを行い、収集方法等について協議しています。

3) ごみに関する情報の公開

市民や事業者に分かりやすく伝えることを念頭に、市ホームページにごみに関する情報を掲載しています。

4) 高齢者や障がい者などに配慮した収集運搬体制の検討

令和 5(2023)年度から「古賀市ふれあい収集事業」を開始し、高齢者等の可燃ごみの持ち出し支援を行っています。

5) 災害時の対策についての施策検討

災害時に多量に発生する廃棄物の処理について、広域的な処理体制の確保と、地域内及び周辺地域との連携を図るために平成 30(2018)年度に古賀市災害廃棄物処理計画を策定しています。

また、災害発生に備え各団体と協定を締結しています。

表 22 災害時の主な協定

協定の名称	協定締結団体	締結日
一般廃棄物の処理に関する相互協定	福岡市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町	平成 12(2000)年 12月25日
可燃・不燃ごみ相互融通に関する申し合わせ事項	古賀清掃工場(エコロの森)、宗像清掃工場	平成 15(2003)年 6月24日
災害時における福岡県内市町村間の相互応援に関する基本協定	福岡県内の市町村	平成 17(2005)年 4月26日
福岡県消防相互応援協定	福岡県内の市町村、消防の一部事務組合及び消防を含む一部事務組合	平成 18(2006)年 10月10日
福岡都市圏市町村消防相互応援協定	福岡都市圏の市町、消防の一部事務組合	平成 18(2006)年 10月10日
環境自治体会議を構成する市町村の災害等における相互支援に関する協定	環境自治体会議に属する市町村のうち参加の意思表示をした 30 市町	平成 24(2012)年 6月6日
災害廃棄物の処理等に関する協定書	公益社団法人福岡県産業廃棄物協会	平成 29(2017)年 9月11日
災害時における一般廃棄物の収集運搬に関する協定書	新栄環美協働組合	平成 31(2019)年 1月29日

【ごみ処理に関する体制整備の推進の課題】

これまでは、収集運搬、資源化、処理状況、処理後の行方、経費等の関連情報を把握しながら、実態調査を行うとともに、可能な限りごみ処理経費の削減に努め、収集体制の効率化を進めてきました。また、ごみに関する情報はできる限り公開し、広報・市ホームページにより周知しています。さらに、古賀市ふれあい収集事業により可燃ごみの持ち出し支援による市民サービスの向上や古賀市災害廃棄物処理基本計画の策定などにも取り組んでいます。

今後も、引き続き実態の把握を行い、ごみ処理に係る体制の効率化、経費の抑制、ごみに関する情報の公開等に努めていく必要があります。

(6) 「循環型社会の形成についての調査研究」の現状と課題

1) 循環型社会の形成に関する研究の継続

平成 25(2013)年度に古賀市循環型社会研究会から答申を受けた内容を踏まえ、循環型社会の形成に向け調査研究しています。(資料編 P7 参照)

【循環型社会の形成についての調査研究の課題】

古賀市循環型社会研究会における答申を踏まえ、循環型社会の形成に向け調査研究しています。答申を受けた内容については引き続き調査研究するとともに、製品プラスチックの資源化の検討など、必要に応じて個別に研究を進めていく必要があります。

第5節 ごみ処理に関する課題と今後の取組の方向性

家庭系ごみ排出量は横ばい傾向にあり、計画目標値には達していません。4Rの推進など、ごみの減量・資源化施策を更に推進していく必要があります。

事業系ごみ排出量は、緩やかな減少傾向にあり、計画目標値を達成しています。引き続き事業系ごみの実態把握と事業者への適正な指導を推進する必要があります。

この他、資源循環を中心とした環境活動を進めていく上での市民・団体・事業者の連携強化や資源循環に関する環境教育の充実、ごみ処理に係る体制の効率化等に努めていく必要があります。

これらの課題に対し、総合的に取り組んでいくことにより、限りある資源を効率的に利用し、リサイクル等で循環させながら、将来にわたって持続して使い続けていく社会「循環型社会」の形成を目指していく必要があります。

第4章 ごみ処理基本計画

第1節 計画の基本方針

1. 基本理念

資源を有効に活用する循環型社会の形成

長期的な視野に立った“まちづくりの指針”を示す「第5次古賀市総合計画」では、目標像として掲げる『ひと育つ こが育つ 人がまちを支え 産業が人を支え みんなが育つ 未来に向かって育ち続けるまち』実現のため、ごみ処理に関する政策の方向性を「資源を有効に活用する循環型社会の形成」と設定しています。

また、国の上位計画である「第四次循環型社会形成推進基本計画」では、国が実施すべき循環型社会形成推進のための政策として、“環境的側面、経済的側面、社会的側面を統合的に向上させる取り組み”、“ライフサイクル全体での徹底的な資源循環”など、新たな視点を盛り込んだ方法論が展開されています。

本計画では基本理念を、第5次古賀市総合計画で示すごみ処理に関する施策の方向性と同様に「資源を有効に活用する循環型社会の形成」とし、国の新たな動きを踏まえつつ取り組みを進めていきます。

第5次古賀市総合計画におけるごみ処理政策の位置づけ

○目標像：ひと育つ こが育つ

人がまちを支え 産業が人を支え みんなが育つ 未来に向かって育ち続けるまち

○政策の目標（政策によって目指すまちの姿）：環境の保全と継承

未来の地球のために、日々の暮らしのなかでできることを考え、行動し、持続可能で豊かな環境を次の世代に引き継ぐまち

○施策とその方向性：資源を有効に活用する循環型社会の形成

限りある資源を将来へ引き継ぐとともに、廃棄物処理に伴う環境負荷を低減することができるよう、市民・事業者とともに、リフューズ (Refuse)・リデュース (Reduce)・リユース (Reuse)・リサイクル (Recycle) の4Rが浸透したライフスタイルやビジネススタイルの定着を推進し、なお残るごみについては適正に処理するとともに、市民や事業者に対し適正な排出に向けた啓発を行います。

取り組みを進めるにあたっては、古賀市の最上位計画である第5次古賀市総合計画や環境分野の最上位計画である第3次古賀市環境基本計画との整合を図る必要があります。

第3次古賀市環境基本計画では、限りある資源を有効に活用するため、資源循環の環境課題に対して「4Rの取組を推進するごみの少ないまち」を目標として設定しています。

第3次古賀市環境基本計画における資源循環に関する施策の体系（抜粋）

分野別環境目標	施策の方向性	施策
資源循環 4Rを推進する ごみの少ないまち	1. 家庭における4Rの推進	(1) 4Rの普及促進 (2)ごみの減量の推進 (3)資源化の推進
	2. 事業所における4Rの推進	(1)ごみの減量と資源化の推進

図 19 第3次古賀市環境基本計画 資源循環に関する施策の体系

2. 循環型社会の形成

循環型社会とは、製品等が廃棄物等となることが抑制され、製品等が循環資源となった場合においては適正に循環的な利用が行われることが促進され、循環的な利用が行われない循環資源は適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会です。

<循環型社会の基本原則>

- ・再生可能な資源を使った製品に変更することを検討する
- ・廃棄物等の発生を抑制する
- ・排出された廃棄物等は、できるだけ資源として循環的な利用を行う
- ・どうしても循環的な利用が行われないものは、適正に処分する

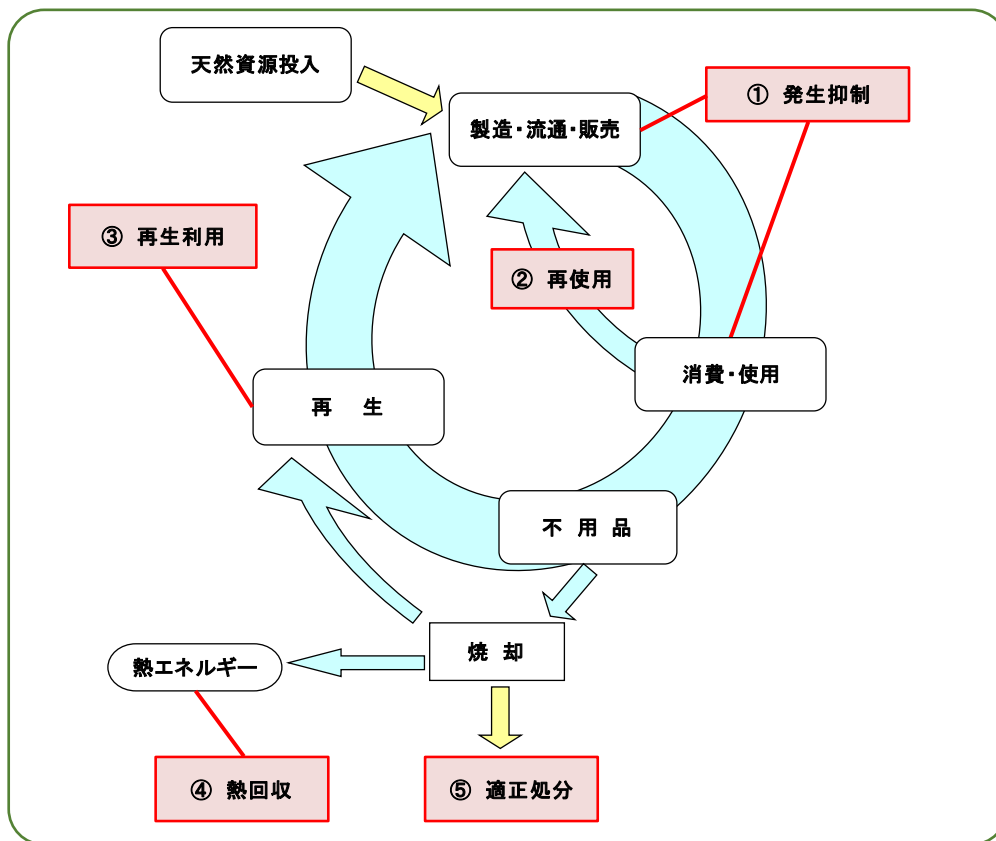


図 20 循環型社会のイメージ

3. ごみ処理の基本原則

本計画では、環境への負荷ができる限り低減される循環型社会の形成を図るため、「循環型社会形成推進基本法」を踏まえるとともに、古賀市の考え方を加え、ごみ処理の基本原則（優先順位）を次のように定めます。

4R

優先順位 1 発生抑制

不要なものを持ち込まない（リフューズ）



削減（リデュース）

＜発生するごみをできるだけ減らす＞

循環型社会を形成するためにごみとなるものは作らない、求めないという事業活動やライフスタイルを定着させ、ごみの発生抑制を図ります。



優先順位 2 再使用（リユース）

＜できるだけ繰り返し使う＞

発生抑制を図ったうえで、最後まで使いきり、それでも不用になったものは、必要の人に渡すか、他の使えるものに変えるなどでごみの排出量を削減します。



優先順位 3 再生利用（マテリアルリサイクル）

＜資源としてリサイクルする＞

発生抑制・再使用を行った後、どうしても使えず排出されるごみのうち、リサイクル可能なものについては資源としてリサイクルします。また、リサイクルされた再生資源、再生品の利用を促進します。



優先順位 4 熱回収（サーマルリサイクル）

＜焼却しその熱を利用する＞

発生抑制・再使用・再生利用を図った後に排出されるごみのうち、焼却可能なものについては焼却しその熱を利用します。



優先順位 5 適正処分

＜どうしても使えないものは、適正に処分する＞

最終的に処分しなければならないものは、環境への負荷ができる限り低減される適正な処分を行います。

4. 基本方針

基本理念「資源を有効に活用する循環型社会の形成」を推進するに当たり、5つの基本的な方針に沿った施策を重点的に展開します。

1. 生活系ごみ*対策

循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制、再使用、再利用に至るまでの総合的な施策を展開します。

2. 事業系ごみ対策

事業系一般廃棄物については、実態を把握し、事業者との連携を図りながら、ごみ減量・再資源化を推進します。

3. 市民・事業者・市のパートナーシップづくり

環境に関する活動について、個人・団体との連携を強化するとともに、情報提供や活動の推進を図ります。

4. 資源循環に関する環境教育・普及啓発の充実

年齢層に応じた環境教育・学習の充実を図るとともに、環境教育の人材活用、活動の推進を図ります。

5. ごみ処理に関する体制整備の推進

ごみやリサイクルに関する情報を公開しながら、より一層のごみ処理事業の効率化に努め、ごみ処理事業における市民サービスの向上を図ります。

※第2次計画では、市民の日常生活から出るごみを「家庭系ごみ」としていましたが、「日本の廃棄物処理（環境省 令和5年3月）」の「日本の廃棄物処理に関する基本的な用語」の表記に合わせ、本計画では「生活系ごみ」に変更します。

5. 市民・事業者・市の役割

基本方針を推進するに当たり、市民、事業者、市が、それぞれの役割を果たしていく必要があります。各主体の知識や知恵を最大限に活用し、持続的な取組とするためには、各主体が個々に行動するだけでなく、連携・共働して問題の解決に向けて取り組む必要があります。

① 市民の役割

市民は、自らも廃棄物等の排出者であり、環境負荷を与えその責任を有している一方で、循環型社会づくりの担い手でもあることを自覚して行動するとともに、より環境負荷の少ないライフスタイルへの変革を進めていくことが求められています。また、市民の消費者としての側面を意識し、個々の消費の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会（消費者市民社会）の形成を目指すことが求められています。

② 事業者の役割

生産者等については、環境に配慮した事業活動を行うことなどにより、持続的発展に不可欠な自らの社会的責務を果たし、とりわけ、法令遵守を徹底し、排出事業者責任を踏まえて、不法投棄・不適正処理の発生を防止することなどが求められます。また、拡大生産者責任を踏まえて、製品が廃棄物等となった後の適正な循環利用・処分に係る取組への貢献や、情報公開など透明性を高める努力を行うことなどが求められます。廃棄物処理業者については、生活環境の保全と衛生環境の向上を確保した上で、廃棄物を貴重な資源として捉え、そこから有用資源を積極的に回収し循環利用していくことなどが求められます。金融機関や投資家には、循環型社会づくりに取り組む企業・NPOや、循環型社会づくりにつながるプロジェクト等に対して的確に資金供給することなどが期待されます。

これらの個別事業者に加え、事業者団体の取組も重要で、これまでの取組で進展した最終処分量の削減に加えて、自主的に資源生産性など業種に応じた目標を設定すること等により事業者全体の取組をより深化させていくことが期待されます。

③ 市の役割

市は、地域における循環型社会を形成していく上で、中核的な役割を担っており、廃棄物等の適正な循環利用及び処分の実施や各主体間のコーディネーターとして重要な役割を果たすこと、さらに地域単位での住民の生活に密着した循環システムを構築することが求められています。

基本理念

資源を有効に活用する循環型社会の形成



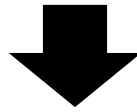
ごみ処理の基本原則

【循環型社会形成推進基本法によるごみ処理の優先順位】

再生可能な資源への切り替え

+

(発生抑制 ⇒ 再使用 ⇒ 再生利用 ⇒ 熱回収 ⇒ 適正処分)



基本方針

1. 生活系ごみ対策
2. 事業系ごみ対策
3. 市民・事業者・市のパートナーシップづくり
4. 資源循環に関する環境教育・普及啓発の充実
5. ごみ処理に関する体制整備の推進

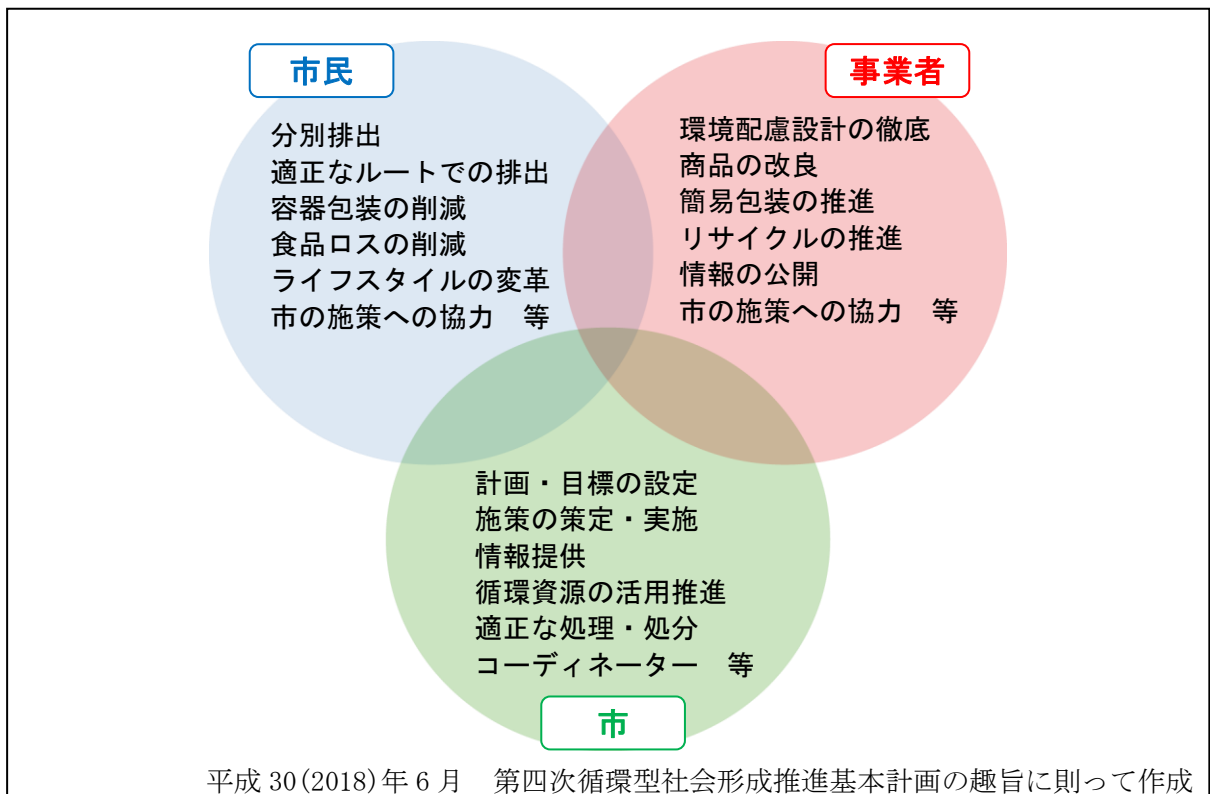


図 21 循環型社会体系図

第2節 計画の目標

1. ごみ排出量の将来推計

(1) 人口推計

「第5次古賀市総合計画・基本構想（2022年～2031年）」では、「第2期古賀市人口ビジョン」における推計値をもとに、将来の人口フレームの目標を6万人と想定しています。

本計画では、これらの将来人口との整合を図るため、「第2期古賀市人口ビジョン」の推計値（第1期社人研推計準拠+第2期子ども女性比率による推計）をもとに算定した推計人口を採用します。

表 23 推計人口

(単位:人)

年 度		実績及び 推計人口	第2期古賀市 人口ビジョン推計値	古賀市第5次 総合計画目標値
実 績 値	H25	58,757		
	H26	58,324		
	H27	58,292	57,959	
	H28	58,433		
	H29	58,673		
	H30	58,993		
	R元	59,444		
	R2	59,694	59,531	
	R3	59,565		
	R4	59,346		
推 計 値	R5	59,426		60,000
	R6	59,506		
	R7	59,585	59,585	
	R8	59,508		
	R9	59,431		
	R10	59,354		
	R11	59,277		
	R12	59,202	59,202	
	R13	59,055		
	R14	58,908		
	R15	58,761		
	R16	58,614		
	R17	58,467	58,467	

(注) 実績人口：各年9月末人口

推計人口：第2期古賀市人口ビジョン推計値をもとに直線補完した各年の推計人口

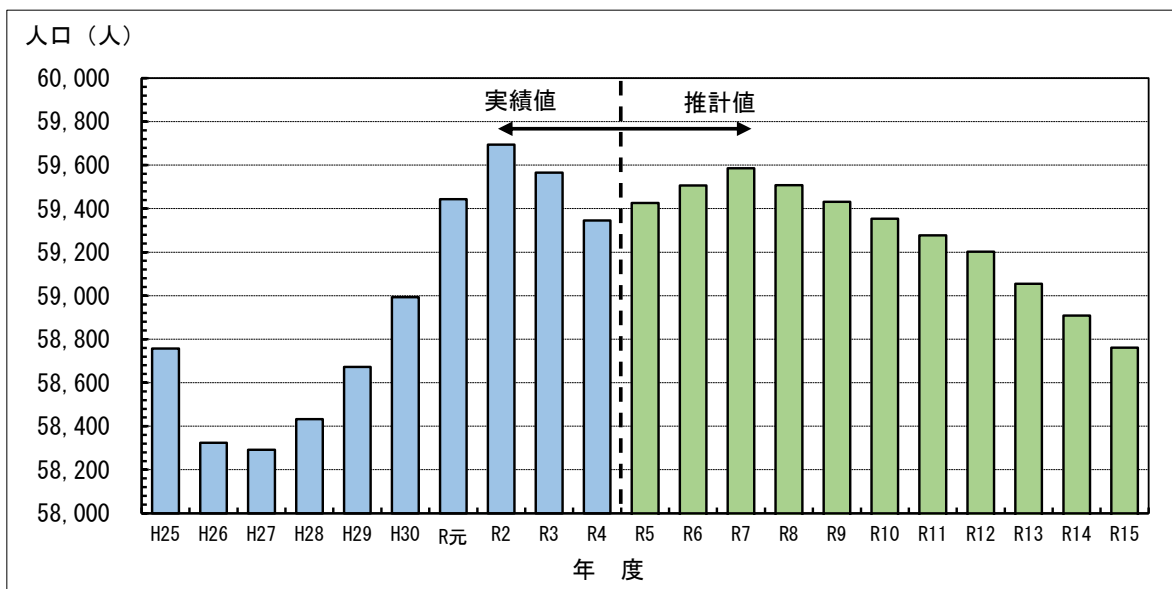


図 22 推計人口

(2) ごみ総排出量・リサイクル総量の推計

ごみの排出の抑制、再生利用を促進せず、循環型社会形成に向けた改善を行わない場合のごみ総排出量とリサイクル総量の推計値は表 24 のとおりです。

ごみ総排出量は令和 7(2025)年度をピークにその後は緩やかな減少傾向となる見通しです。令和 7(2025)年度のごみ総排出量 19,354t、リサイクル総量 3,207t を最大とし、目標年度の令和 15(2033)年度にはごみ総排出量が 19,189 t、リサイクル総量 3,176 t と推計されます。

表 24 ごみ総排出量・リサイクル総量理量 推計表

年度	R4 実績	R5 推計	R6 推計	R7 推計	R8 推計	R9 推計
ごみ総排出量 (t)	19,217	19,323	19,339	19,355	19,340	19,324
リサイクル総量 (t)	3,184	3,202	3,204	3,208	3,204	3,202
人口 (人)	59,346	59,426	59,506	59,585	59,508	59,431

	R10 推計	R11 推計	R12 推計	R13 推計	R14 推計	R15 推計
ごみ総排出量 (t)	19,308	19,293	19,277	19,247	19,217	19,187
リサイクル総量 (t)	3,200	3,198	3,195	3,189	3,181	3,176
人口 (人)	59,354	59,277	59,202	59,055	58,908	58,761

※ごみ総排出量算定方法：生活系ごみ排出量原単位(558.95g/人・日)×人口×365日
 +事業系ごみ排出量原単位(19.715t/日)×365日

生活系ごみ排出量原単位：過去2年間(令和3年度、令和4年度)における、1人1日当たり生活系ごみ排出量の平均値(558.95g/人・日)がそのまま推移するものとします。

事業系ごみ排出量原単位：過去2年間(令和3年度、令和4年度)における、1日当たり事業系ごみ排出量(19.715t/日)がそのまま推移するものとします。

リサイクル総量算定方法：ごみ総排出量から、最新の実績である令和4年度の資源ごみの品目別処理量の構成割合を用いて算出しています。

2. ごみ減量と資源化の指標

(1) ごみ減量と資源化の指標設定

第3章第4節の実施策の評価と今後の取り組みへの課題から、生活系及び事業系ごみの目標に対する課題の整理を踏まえ、ごみ減量と資源化の指標を以下に示します。

なお、第2次計画で資源化の指標として使用していた「資源化率」については、国及び多くの自治体において「リサイクル率」を使用していることを踏まえ、「リサイクル率」に変更します。

(ごみ減量と資源化の指標)

ごみの排出量増加を抑制しながら、ごみの減量と資源化を推進します。

- ① 1人1日当たりの生活系ごみの排出量の削減
- ② 1日当たりの事業系ごみの排出量の削減
- ③ リサイクル率の向上

(算定方法)

① 「1人1日当たりの生活系ごみの排出量」

=生活系ごみ（生活系収集ごみ+直接搬入ごみ+集団回収）の排出量
÷年間日数（365日）÷人口

② 「1日当たりの事業系ごみの排出量」

=事業系ごみ（事業系収集ごみ+直接搬入ごみ（事業系））の排出量
÷年間日数（365日）

③ 「リサイクル率」

=リサイクル総量÷ごみ総排出量×100

(2) ごみ減量と資源化における目標数値

本計画におけるごみの減量と資源化に関する数値目標を以下のとおり定めます。

表 25 ごみ減量と資源化における目標数値

項目	計画基準（実績値） 令和 4 (2022) 年度	計画目標（目標値） 令和 15 (2033) 年度
総人口（人）	59,346	58,761（推計人口）
1人1日当たりの 生活系ごみ排出量（g）	556.2	528.4 （令和 4 年度から 5%削減）
1日当たりの 事業系ごみ排出量（t）	19.64	18.66 （令和 4 年度から 5%削減）
リサイクル率（%）	16.6	20.0

コラム：リサイクル率の目標達成に向けた、市民 1 人当たりの資源化取り組みの目安

リサイクル率の目標値 20.0%を達成するためには、市民一人一人が資源化に取り組み、市民 1 人が排出するごみ量のうち、分別収集など資源化するごみの量を 1 日当たりさらに約 50 g 増やしていく必要があります。

【目標達成のため市民 1 人が 1 日に増やしていく資源ごみ（50 g）の量の目安】

- 空のペットボトル（500 ml サイズ） 2 本分 ※1 本 約 25 g
- 新聞紙 3 枚分 ※1 枚 約 19 g
- 紙パック（1 l サイズ） 2 本分 ※1 本 約 30 g

※可燃ごみに入れず、資源の分別収集にご協力をお願いします。

第3節 施策の展開

本計画の施策の体系を示します。

具体的な施策は5つの基本方針に沿って次ページ以降に示します。

基本方針	施策
1. 生活系ごみ対策 循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制、再使用、再利用に至るまでの総合的な施策を展開します。	<ul style="list-style-type: none">(1) 4Rの推進に向けた分かりやすい情報の提供(2) 食品ロス削減に向けた取組の推進(3) 生ごみを減量するための啓発促進(4) プラスチックごみを減量するための啓発推進(5) 分別収集の推進(6) 不法投棄への対応
2. 事業系ごみ対策 事業系一般廃棄物については、実態を把握し、事業者との連携を図りながら、ごみ減量・再資源化を推進します。	<ul style="list-style-type: none">(1) 適正な排出・処理の指導(2) 実態把握調査の実施(3) ごみの減量と資源化に関する啓発や情報提供(4) リサイクル率向上のための取組(5) 優良事業者への表彰制度の活用(6) 不法投棄への対応
3. 市民・事業者・市のパートナーシップづくり 環境に関する活動について、市民・事業者・市の連携を強化するとともに、情報提供や活動の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none">(1) 市民・事業者・市の連携強化(2) 情報の提供及び活動の推進
4. 資源循環に関する環境教育・普及啓発の充実 年齢層に応じた環境教育・学習の充実を図るとともに、環境教育の人材活用、活動の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none">(1) 資源循環に関する環境教育のあり方の検討(2) 年齢層等に応じた環境教育の充実と人材活用の推進
5. ごみ処理に関する体制整備の推進 ごみやリサイクルに関する情報を公開しながら、より一層のごみ処理事業の効率化に努め、ごみ処理事業における市民サービスの向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none">(1) 実態の把握(2) ごみ処理に関する体制の効率化、経費の抑制(3) ごみに関する情報の公開(4) 高齢者や障がい者などに配慮した収集運搬体制の検討(5) 災害時の対策(6) 処理施設の適正かつ効率的な運営(7) 循環型社会の形成に関する研究の継続

図 23 施策の体系図

1. 生活系ごみ対策

- (1) 4Rの推進に向けた分かりやすい情報の提供
- (2) 食品ロス削減に向けた取組の推進
- (3) 生ごみを減量するための啓発促進
- (4) プラスチックごみを減量するための啓発促進
- (5) 分別収集の推進
- (6) 不法投棄への対応

(1) 4Rの推進に向け市民に分かりやすい情報の提供

- 市ホームページや広報こが等を通じて、それぞれのライフスタイルや世代に合わせて無理なく4Rの取組ができる情報の提供を行います。
- 市が作成するパンフレット「家庭系ごみの出し方」等を通じて、分かりやすいごみの出し方や分別方法の周知を図ります。
- 4Rの推進とともに、環境への負荷が少ない製品や循環型の素材の製品の選択など、再生可能な資源への切替え(リニューアブル)を考慮したグリーン購入を推進し、情報の提供を行います。
- イベントや講座を通じて、4Rの推進に向けた普及啓発を行います。

(2) 食品ロス削減に向けた取組の推進

- フードドライブをはじめとした食品ロス対策を推進します。
- すぐに食べるものは賞味期限の近い商品を積極的に購入する「てまえどり」を推進します。

(3) 生ごみを減量するための啓発促進

- 食べ物を「買いすぎない」「作りすぎない」「残さずに食べきる」など生ごみ自体を発生させない啓発を行います。
- 市のイベント等を通じて、食品ロスの現状を伝えると共に、生ごみの減量に効果的な方法(極力濡らさない、水切り、堆肥化等)についての啓発を行います。
- 市民向け「ダンボールコンポスト講座」を実施し、堆肥化による生ごみ減量を促す啓発を行います。

(4) プラスチックごみを減量するための啓発促進

- プラスチックを「断る」「代替商品を選ぶ」啓発を行います。
- 市のイベント等を通じて、ワンウェイ(使い捨て)プラスチックの現状を伝えるとともに、マイバッグの使用やプラスチック代替商品の使用を促す啓発を行います。

(5) 分別収集の推進

- 古紙や剪定枝、廃食油や小型家電などの分別収集による資源化を促進します。
- 分別収集を安全に実施するため、リチウムイオン電池等の正しい廃棄方法の周知に努めます。
- 資源ごみの回収の効果を明確化し、分別収集への取り組みを推進します。
- 最新のリサイクル情報を収集し、新規に分別収集できる品目について検討し、リサイクル率の向上につなげます。

(6) 不法投棄への対応

- ごみの不法投棄の防止について、広報等を通じ、啓発に努めます。
- 不法投棄パトロールを必要に応じ行い、監視体制の強化を図ります。
- 不法投棄を発見した場合は、警察等の関係機関と連携し、原因者の究明及び原状回復の指導を行います。

コラム：市民に求められる取組の例（第3次古賀市環境基本計画抜粋）

（ごみを出す前に）

- ・資源物の分別を徹底します。
- ・ごみをなるべく濡らさないようにします。また、生ごみの水切りをします。
- ・コンポスト容器などで生ごみを堆肥化し、利用します。
- ・食べない缶詰などは、フードドライブへ寄付します。
- ・着なくなった服はリユースショップなどで売却します。

（外出時）

- ・マイバッグ、マイボトル、マイカトラリー（はし、スプーン、フォーク）を持ちます。

（買い物時）

- ・食材は使い切ることができる量を購入します。
- ・詰め替え用の商品やばら売り・量り売り商品を購入します。
- ・お店で食材を購入する際、手前にある商品から選ぶ「てまえどり」に協力します。
- ・包装紙や保存用の箱を断ります。
- ・まちで配布している不要なチラシ、フリーペーパーを断ります。

2. 事業系ごみ対策

- (1) 実態把握調査の実施
- (2) 適正な排出・処理の指導
- (3) ごみの減量と資源化に関する啓発や情報提供
- (4) リサイクル率向上のための取組
- (5) 優良事業者への表彰制度の活用
- (6) 不法投棄への対応

(1) 実態把握調査の実施

- 事業系ごみについて、多量排出事業者を中心として、業種ごとに現在の排出状況や処理の負担、リサイクルへの関心や取組意識等について調査を実施します。

(2) 適正な排出・処理の指導

- 事業系ごみの適正な排出を促すため、事業系ごみの排出状況を確認した上で、処理責任を明確にして、適正処理・減量・資源化を指導します。

(3) ごみの減量と資源化に関する啓発や情報提供

- 実態把握調査の結果を踏まえ、事業者を訪問し、製造・流通・販売等の事業活動の各段階における廃棄物について、ごみの減量と資源化に関する情報提供、指導及び啓発を行います。
- 事業者のグリーン購入について普及啓発し、推進します。
- 事業者の適正処理・減量・資源化の関心を高めるため、4Rの取組を促すパンフレットを作成します。
- 事業者が自主的・自発的に取り組むことができる他自治体の事例などを調査研究し、市ホームページや広報こが等での啓発に加え、事業者訪問において取組の紹介を行います。
- 環境負荷の少ない事業活動への変革を求めるため、業種ごとの産業特性に合わせて無理なく4Rの取組ができる情報提供を行います。

(4) リサイクル率向上のための取組

- 事業者に対し資源ごみの分別の徹底を促すとともに、自主的な資源化の取組についての支援を検討します。

(5) 優良事業者への表彰制度の活用

- ごみ減量化推進優良事業所認定制度により、ごみの減量化に積極的に取り組んでいる事業所を認定するとともに、特に優れた事業所を表彰し、ごみ減量意識の向上や具体的な行動を促します。

(6) 不法投棄への対応

- ごみの不法投棄の防止について、広報等を通じて、啓発に努めます。
- 不法投棄パトロールを必要に応じて行い、監視体制の強化を図ります。
- 不法投棄を発見した場合は、警察等の関係機関と連携し、原因者の究明及び原状回復の指導を行います。

コラム：事業者に求められる取組の例（第3次古賀市環境基本計画抜粋）

（日々の業務）

- ・資源物の分別を徹底します。
- ・グリーン購入を推進します。
- ・梱包材や容器包装などの減量化に取り組みます。
- ・節水やペーパーレス化など、省資源化に取り組みます。

（食品の販売、食事の提供）

- ・食品ロスを出さない調理、メニュー提供に取り組みます。
- ・「てまえどり」を推進するなど、消費期限内の食品廃棄削減に取り組みます。
- ・必要な量だけ買うことができるように、ばら売りや量り売りを進めます。
- ・生ごみ処理機などで生ごみを減量化します。

（商品・サービスの販売、提供）

- ・買い物客のマイバッグ持参を推進します。
- ・過剰包装を控え、簡易包装を推進します。
- ・ごみの出にくい商品の設計、使用済み商品の再利用及び再生利用など、ごみの減量に向けた工夫をします。

3. 市民・事業者・市のパートナーシップづくり

(1) 市民・事業者・市の連携強化

(2) 情報の提供及び活動の推進

(1) 市民・事業者・市の連携強化

- KOGA 環境ひろばや「ラブアース・クリーンアップ」などの、市民・事業者・市が連携して資源循環に関する環境活動ができる事業の実施を通じて、連携の強化を図ります。

(2) 情報の提供及び活動の推進

- 市ホームページや広報こがなどの広報手段だけでなく、ボランティア団体の情報が集まる「つながりひろば」の広報手段を活用し、資源循環に関する情報発信の強化を図ります。
- 「道路環境美化」による市民参加の一斉清掃、「アダプトプログラム」による市内の事業者を中心とした団体の積極的な美化活動、「ラブアース・クリーンアップ」など市民・事業者による海岸の一斉清掃、地域コミュニティやボランティア団体による清掃活動等を推進し、支援します。

4. 資源循環に関する環境教育・普及啓発の充実

- (1) 資源循環に関する環境教育の検討
- (2) 年齢層等に応じた環境教育の充実と人材活用の推進

(1) 資源循環に関する環境教育の検討

- 古賀市まちづくり出前講座の新たなプログラム構築について検討します。
- 環境人材バンク制度の活用促進について検討します。

(2) 年齢層等に応じた環境教育の充実と人材活用の推進

- 環境人材バンク制度の活用により、市民・事業者が資源循環に関する学習会に主体的に参加できるよう推進を図ります。
- 市、環境保全活動団体を中心に市民を含む多様な主体で、資源循環に関する意見交換のための交流の場づくりを行います。
- 外国籍市民を対象に「やさしい日本語」を使ったごみの捨て方講座を開催します。

コラム：やさしい日本語

「やさしい日本語」とは、子どもの頃から日本語を自然に使っていない方にも分かるように、分かりやすく、簡単な言葉に言い換えて話す（書く）日本語のことです。

「やさしい日本語」の特徴

- ・単文で1文を短くする。
- ・尊敬語、謙譲語を減らし、「です」「ます」を使う。
- ・カタカナ・外来語は使わない。 等

5. ごみ処理に関する体制整備の推進

- (1) 実態の把握
- (2) ごみ処理に関する体制の効率化、経費の抑制
- (3) ごみに関する情報の公開
- (4) 高齢者や障がい者などに配慮した収集運搬体制の検討
- (5) 災害時の対策
- (6) 処理施設の適正かつ効率的な運営
- (7) 循環型社会の形成に関する研究の継続

(1) 実態の把握

- 収集運搬、処理状況、資源化、経費等の実態を把握し、各施策に反映させます。

(2) ごみ処理に関する体制の効率化、経費の抑制

- ごみ処理に係る市民や事業者の負担の公平性の確保を図りながら、一層のごみの減量と資源化を促進するため、ごみ処理手数料の適正価格について検討します。
- 収集方法の効率化を目的に、費用対効果を検証しながら収集運搬体制の見直しなどを検討します。

(3) ごみに関する情報の公開

- ごみに関する情報は、市民や事業者がごみ減量や資源化への意識が向上するように分かりやすく公開します。

(4) 高齢者や障がい者などに配慮した収集運搬体制の検討

- ふれあい収集事業や地域で開催される分別収集やを中心に、市民の負担が軽減される収集運搬体制について、費用対効果を踏まえて検討します。

(5) 災害時の対策

- 災害時に多量に発生する災害廃棄物の処理について広域的な処理体制の確保を図ります。
- 災害時における地域内及び周辺地域との連携について検討し、必要に応じて関係団体と協定を締結します。
- 必要に応じて古賀市災害廃棄物処理計画の見直しを行います。

(6) 処理施設の適正かつ効率的な運営

- ごみ処理の継続した適正処理と環境負荷の低減を図るため、玄界環境組合及び構成市町（福津市、宗像市、新宮町）と処理施設の効率的な運営について検討します。

(7) 循環型社会の形成に関する研究の継続

- 製品プラスチックを始めとした資源化が進んでいない廃棄物の処分方法について継続して研究します。

第4節 計画の進行管理

1. ごみ処理状況の情報管理と公開

ごみの減量と資源化、適正処理を市民・事業者等と共働で推進していくために、ごみ処理に関する情報を適正管理し、必要に応じて公開します。

2. 取組状況の報告

本計画の施策の推進や関連する事業の実施については、年度ごとに「一般廃棄物処理実施計画」を策定し、上位計画である「第3次古賀市環境基本計画」の進行管理へ報告を行います。

3. 推進体制

庁内関係部署との連携を図り、本計画を推進します。

なお、計画の推進に当たり、計画策定の前提となる諸条件に大きな変動があった場合は、計画の見直しを行います。

4. 玄界環境組合及び構成市町との連携

環境に配慮したごみ処理を将来にわたり効率的に行うため、玄界環境組合及び構成市町と連携していきます。